

SEKISUI

セキスイ全自動風呂給湯電気温水器 取扱説明書



AUFシリーズ

時間帯別電灯/深夜電力(通電制御)切替式

形名 マイコン節電タイプ(防雨形)・高圧力型
AUF-37M4K・AUF-46M4K・AUF-56M4K

※ご使用前にお買いあげいただきました温水器の形名をおたしかめください。

- *このたびはセキスイ電気温水器をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
- *この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになるまえにこの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解してください。
- *お読みになったあとは、いつも手元においてご使用ください。
- *施工説明書を、販売店または工事店から必ず受け取って保存してください。
- *保証書は必ずお受け取りください。
- *お客さまご自身では据付けしないでください。安全や機能の確保ができません。

高圧力型電気温水器とは

平成10年12月に『労働安全衛生法施行令』が改正され、小型ボイラーの規制が見直されたことにより、今までの電気温水器・最高使用水圧が変更され200kPaまでの使用が認められました。
これにより2階への給湯及びシャワーの使い勝手が向上され、より利便性の高い商品となりました。
ただし、一般家庭以外(事業所等)でご使用の際には改正に伴い諸条件が義務付けられています。詳しくは38から40ページをご覧ください。

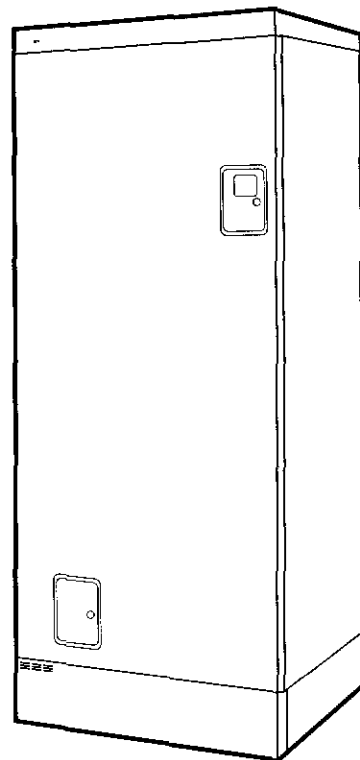
時間帯別料金対応型とは

時間帯別料金制度に対応したもので、本体内に時計機能を内蔵しており、電気料金の安い夜間時間にお湯を沸かすようになっています。また、お湯がたりない場合には、昼間時間にもお湯を沸かす「沸増し」機能がついています。

時間帯別料金制度とは

電気料金を昼間時間と、夜間時間の2つの時間帯に分けて電気料金を算出する料金制度です。昼間時間の電気料金単価は、一般の従量電灯の料金単価に比べ割高になっていますが、夜間時間の電気料金単価は深夜電力料金と同水準で割安になっています。

- この電気温水器は、通電制御による特別引き料金の適用を受けられます。
適用に当っては、最寄りの電力会社に申請してください。
なお、適用機種にはそれぞれ、右記のシールが貼り付けてあります。





もくじ

安全上のご注意	1
各部のなまえとはたらき	5
使いかた	9
凍結防止について	30
通水後お使いにならないとき	31
安全点検・お手入れのしかた	32
定期点検のおすすめ	34
エラーの表示と処理のしかた	35
エラー解除のしかた	36
このようなときには	37
事業者様へのご案内	38
仕様	41
保証とアフターサービス	43






安全上のご注意

- ご使用になる前にこの『安全上のご注意』をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「危険」「警告」「注意」の3つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。
- 表示と意味はつぎのようになっています。

表示	表示の意味
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が、想定される内容を示します。

*物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を意味します。

図記号の例

図記号	図記号の意味
 感電注意	△は注意(警告を含む)を示します。 具体的な注意内容は、△の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「感電注意」を示します。
 分解禁止	⊙は禁止(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、⊙の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「分解禁止」を示します。
 アース工事	●は強制(必ずすること)を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「アース工事」を示します。

■据付前の注意事項

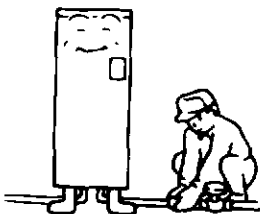
警告

据付・配管・電気工事は、必ずお買いあげの販売店または工事店に依頼すること

ご自分で据付工事をされますと、火災・感電・水漏れの原因になります。



専門業者



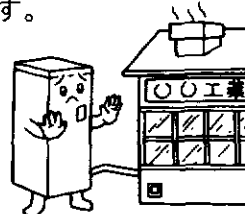
警告

業務用・改造後の使用はしないこと

業務用に使用しないでください。
事故・故障の原因となります。
安全点検を行ってください。



家庭用



アース棒など、別売り部品もセキスイ品を使用すること

純正以外の部品を使うと、事故・故障の原因になります。



純正部品



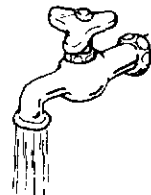
注意

水は水道法に規定された水質基準に適合する水を使用すること

適合しないと故障・水漏れの原因になります。



上水道



■据付後の確認事項

⚠ 警告

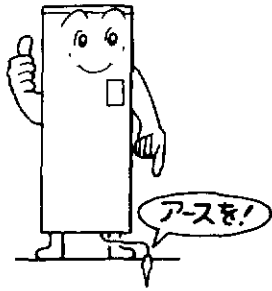
アース工事がされているか確認すること

故障や漏電のときに感電の原因になります。

アースの取り付けは販売店にご相談ください。



アース工事

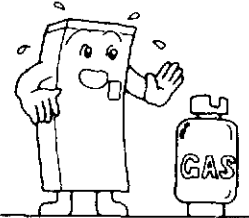


温水器の近くにガス類や引火物が置かれていないことを確認すること

発火の原因になります。



施工確認



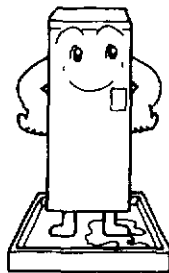
⚠ 注意

床面が防水処理・排水処理されているか確認すること

水漏れが起きた場合、大きな被害の原因になります。



施工確認

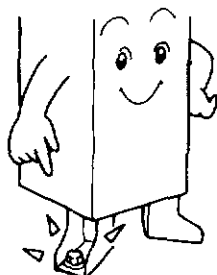


脚がアンカーボルトで固定してあるか確認すること

本体が倒れてけがをすることがあります。



施工確認



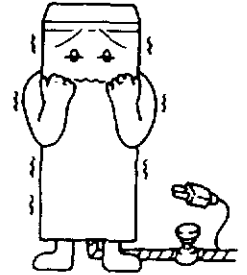
⚠ 注意

凍結防止対策を確認すること

配管が破損してやけどをすることがあります。



施工確認



温水器・メインリモコンが浴室など湿気の多いところに取り付けられていないことを確認すること

火災・感電の原因になります



禁止

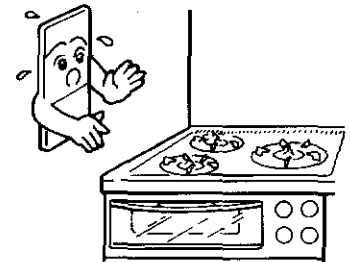


リモコンは、直射日光の当たるところ、屋外やガステーブルの上部など高温になるところに取付けられていないことを確認すること

変色、変形、火災の原因になります。



禁止



■使用上の注意事項

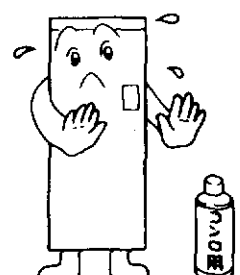
⚠ 警告

温水器の近くにガス類や引火物を置かないこと

発火の原因になります。



禁止



安全上のご注意 (つづき)

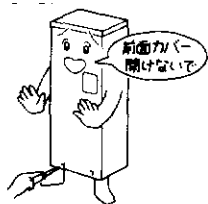
⚠ 警告

前面カバーは開けないこと

感電の原因になります。



禁止



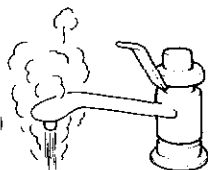
給湯・排水時は熱湯が出るおそれがあります。やけどに注意すること

・給湯せんを開いた直後は水がでますが、すぐに熱湯に変わります。

・シャワーを使う場合、最初に熱いお湯がでることがあります。いきなり頭や体にかけて湯温を十分確認してから行って下さい。



やけど



給湯時は給湯せん本体に手を触れないこと。やけどをすることがあります

朝、最初に給湯せんを開くときに蒸気が吹き出ることがあります。給湯せんは少しずつ開いて下さい。



手をふれない



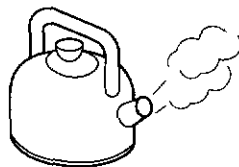
⚠ 注意

そのまま飲用しないこと

長期間のご使用によってタンク内に水あかがたまったり、配管材料の劣化等によって水質が変わることがあります。飲用される場合は、下記の点に注意し、必ず一度、ヤカンなどで沸騰させてからにしてください。

・必ず水質基準に適合した水を使用してください。
・熱いお湯が出てくるまでの水(配管内にたまっている水)は、雑用水としてお使いください。

固形物や変色、濁り、異臭があった場合には、飲用には使用せずに、直ちに点検の依頼を行ってください。



沸騰後飲用

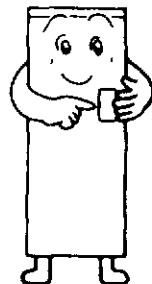
⚠ 注意

電源ボックスカバーは閉じておくこと

ショート・感電の原因になります。ぬれた手でさわらないでください。点検・操作の後には必ずねじを締めてください。



確実に閉じる



電気温水器の上に乗ったり、配管に力を加えないこと

本体が転倒したり、配管が破損してやけどなどの事故の原因になります。とくに、幼児・子供に注意してください。



禁止



■点検・お手入れの注意事項

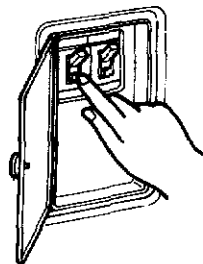
⚠ 警告

漏電遮断器の動作を確認すること

漏電遮断器が故障のまま使用すると、漏電のときに感電の原因になります。



動作点検



逃し弁の点検時には逃し弁排水管に手を触れないこと

やけどをすることがあります。



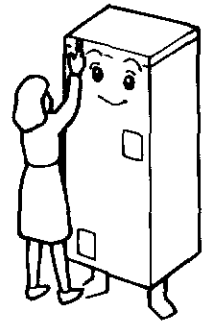
手をふれない



⚠ 注意

逃し弁を点検すること

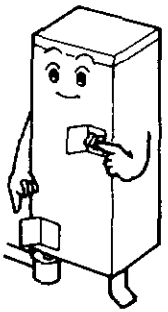
点検しないとタンクや配管が破損したり逃し弁から水漏れしたりすることがあります。



動作点検

タンクの熱湯は直接排水しないこと

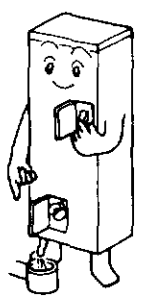
やけどをすることがあります。水で薄めてから流してください。



熱湯排水禁止

1ヶ月以上使用しないときは漏電遮断器を「切」にしてタンクの排水をすること

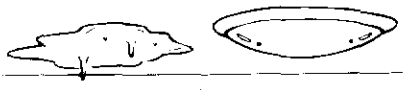
水質が変化することがあります。



水抜き

水漏れを点検すること

とくに集合住宅では、漏水が階下へ被害を与えます。日常点検してください。



漏水点検

■ 修理・譲渡等の注意

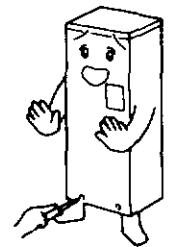
⚠ 警告

修理技術者以外の方は絶対に分解したり修理・改造は行わないこと

発火したり異常動作してけがをすることがあります。



分解禁止



⚠ 注意

このお使いになっている商品を他に売ったり、譲渡されるときには、新しく所有者となる方が安全な正しい使い方を知るために、この取扱説明書と別冊の工事説明書を商品本体の目立つところにテープ止めしてください



説明書添付



■ 異常時の注意

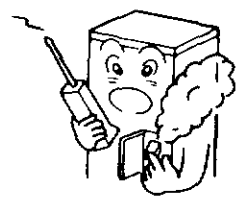
⚠ 警告

異常時(こげ臭い、過圧防止弁からの水漏れ等)は、漏電遮断器のレバーを下げて電源を「切」にして、お買いあげの販売店またはメーカー指定のお客様ご相談センターへ連絡すること

異常のまま使用されますと故障や感電、火災の原因になります。



電源を切る



各部のなまえとはたらき

- *電気温水器は深夜の間にお湯を沸かし、タンクに貯めておいて必要なときに利用するものです。
- *アースは、万一漏電した場合、電気を大地に逃がすため、電気温水器のアース端子と地中に埋設されたアース棒または、家屋に取り付けられたアース端子を

- アース線で接続することにより構成されます。
- *電気温水器本体に「安全上のご注意ラベル」が貼り付けてありますのでお読みいただき、確認してください。

外観および内部構造

別売部品および現場施工部品を組込んだイラストになっています。

※このイラストは370L・460Lで説明しています。

560Lタイプ

逃し弁ワイヤー

逃し弁の動作を確認するときに2~3回手前にかるく引きます。

逃し弁

高圧力型：170kPa
 ※逃し弁は消耗部品です。定期的な交換が必要です。交換時期は、水質によって異なりますので販売店にご相談ください。めやすとしてP43を参照ください。

上ヒーター

タンク

前面カバー下

下ヒーター

過圧防止弁排水ホース

高圧力型は圧力センサーが付いており異常時にはリモコンでお知らせし、タンク沸き上げを停止します。

排水点検扉

この中に排水せん、非常用取水コックが入っています。

給水

専用止水せん

排水せん

非常用取水コック（飲用はできません）

非常の際にはこのコックよりタンクの水を取り出して非常用水として利用します。利用のしかたは本体ラベルをご覧ください。

逃し弁ワイヤー組立

前面カバー

※これ以外は下図をご覧ください。

簡易ホッパー

前面カバー

電源ボックスカバー

この中に漏電遮断器が2個入っています。560Lは漏電遮断器が3個入っています。

減圧弁

高圧力型：150kPa
 ※減圧弁は消耗部品です。定期的な交換が必要です。交換時期は水質によって異なりますので販売店にご相談ください。めやすとしてP43を参照ください。

安全上のご注意ラベル

保温ヒーター

電動三方弁

循環ポンプ

ポンプドレン栓

給水パイプドレン栓

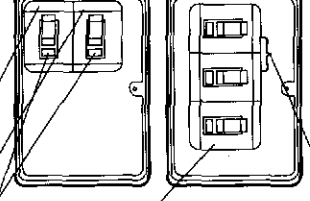
循環口(浴槽往き)

循環口(浴槽戻り)

電源ボックスカバー内部

370L・460L 560L

タンク沸上用漏電遮断器
 心ろ用・制御用漏電遮断器
 テストボタン

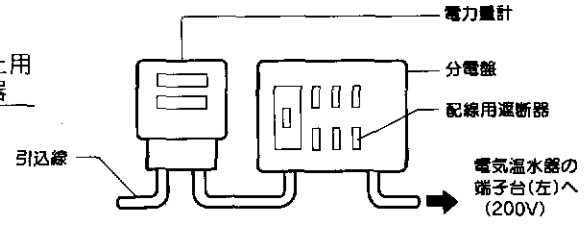


タンク沸上用漏電遮断器
 心ろ用・制御用漏電遮断器

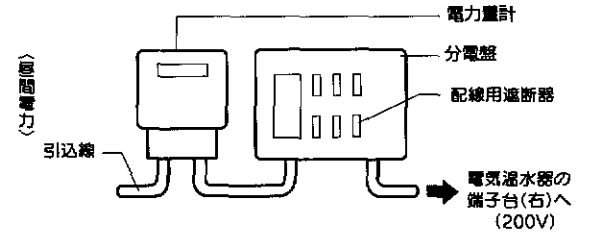
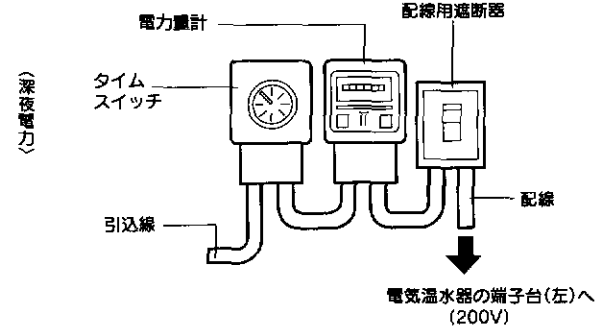
標準引込み配線例

※くわしくは施工説明書をご覧ください。

●時間帯別電灯のとき



●深夜電力のとき



安全上のご注意ラベルについて

特に重要と考えられる事項について「安全上のご注意ラベル」に記載してあります。

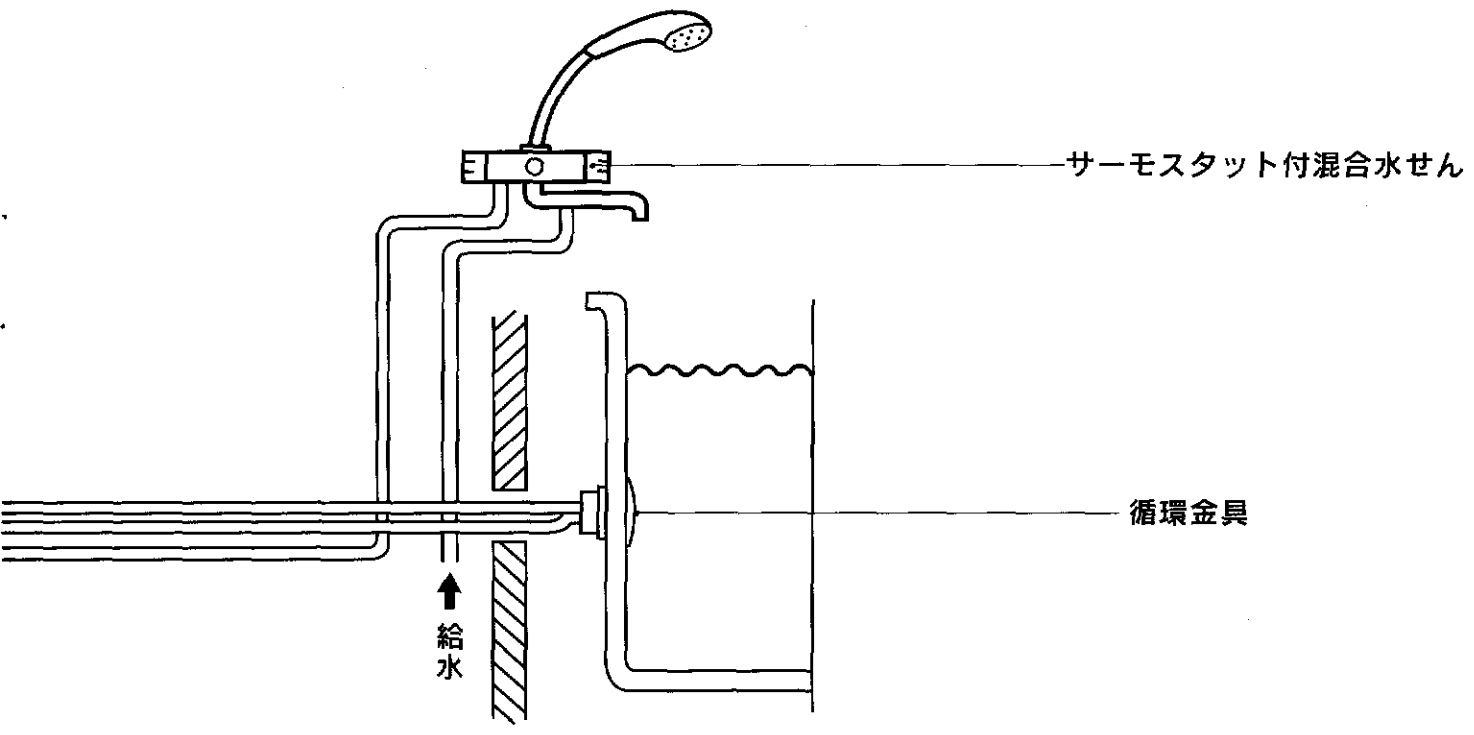
- △警告**
- この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前に付属の「取扱説明書」をよくお読みになり、十分に理解してください。
 - 感電の恐れあり**
 修理は必ず電源を切ってください。
 電源ボックスカバーは必ず接地してください。
 電気器具の接地不良は感電の原因になります。
 - 火災の恐れあり**
 ・湯水の近くでガス栓や引火物を置かないこと。
 - やけどの恐れあり**
 ・お湯を使う前に湯温を確認すること。
 ・給湯器は必ず給湯器の取扱説明書に従ってください。
 ・湯水は必ずお湯に手を触れないこと。
 ・湯水が沸騰したら蓋をし、湯水が沸騰しないこと。
 ・タンクが沸騰しないように湯温を調整してください。
 - 感電・火災の恐れあり**
 異常時（ヒューズ入りなど）は漏電遮断器のレバーを下げて電源を「切」にして、お買いあげの販売店またはセキスイ指定の取扱店にお電話ください。

◎お願い
 本体のラベルが剥がれてなくなったり、文字が消えて読めなくなった場合には、ラベルを販売店から、部品コードを指定して購入し、元の位置に貼ってください。

- ◎取扱いにお留心**
- 給湯器から水が出ることを確認してから漏電遮断器を入りにしてください。
 - 水を入れないで電源を落とす等の原因になります。
 - 湯し弁の湯の出は、絶対に止まらぬようにしてください。
 - タンクが変形してかまぼこや破損の原因になります。
 - タンクの排水を1か月に1回、行ってください。
 - 水アカや流石動がたまると水が汚れる原因になります。
 - お湯の出が悪くなったときは、お買いあげの販売店に依頼して、責任者のストレーナーの掃除を行ってください。
 - 水アカや流石動がたまると、お湯が止まる原因になります。
 - 1か月以上使用しないときは電源を「切」にしてタンクの水位をすべて排水してください。
 - 水質が変化することがあります。
 - そのまま使用しないでください。長期の使用によってタンク内に水アカがたまり、配管材料の劣化による水漏れの原因になります。お買いあげの販売店に依頼して、定期的な点検し、必ず一度、ヤカンなどで洗剤をさかからせてください。
 - 必ず水質基準に適合した水を使用してください。
 - お湯が出なくなるまで水（配管内にたまっている水は、無電圧水としてお湯にください）を流してあげてください。
 - お湯が出なくなるまで、お湯が出た場合には、お湯には使用せずに流してあげてください。
- ◎販売店・工事の取扱いにお留心**
- 湯水から出ているパイプが熱くないようにダブルレンチにて、保護してください。
 - お湯の出が悪くなったときは、必ず一度、ヤカンなどで洗剤をさかからせてください。
 - 湯水が沸騰したら蓋をし、湯水が沸騰しないこと。
 - 湯水が沸騰したら蓋をし、湯水が沸騰しないこと。
 - 湯水が沸騰したら蓋をし、湯水が沸騰しないこと。
 - 湯水が沸騰したら蓋をし、湯水が沸騰しないこと。
- ◎39246L36G2QA 超込形

各部のなまえとはたりき

水せんは湯水混合水せんを使用することをお勧めします。特に浴室ではサーモスタット付混合水せん等の使用をお勧めします。



各部のなまえとはたらき (つづき)

メインリモコン

- イラストはフタが開いた状態です。
- 液晶の表示は全表示している状態です。

「高温」表示

給湯温度が高温であることを示します。

「電源」表示

制御電源が入ると表示します。

「給湯」表示

給湯温度が表示されていることを示します。

「優先」表示

メインリモコンが優先のときに表示します。

残湯量表示

タンク内の残り湯量を4段階で表示します。
(☞12ページ)

「湯はり予約」表示

湯はり予約がされているときに表示します。

デジタル表示

現在時刻・沸き上げ停止日数・湯はり予約時間・エラーコードを表示します。

湯温設定表示

タンク内の沸き上げ設定温度を表示します。

音声スピーカー

ここから音声案内がでます。

沸増し設定表示

時間帯別電灯で契約時「沸増し」設定をしたときに表示します。
(☞13ページ)

「沸き上げ設定」ボタン

タンク内の沸き上げ温度を設定するのに使います。
(☞11ページ)

「沸増し設定」ボタン

時間帯別電灯でご契約時、昼間の電気でタンクの沸増しを行うときに使います。
(☞13ページ)

「タンク湯温」ボタン

タンク内に残っている湯の温度を確認するときに使います。
(☞12ページ)

「▶」表示

ピークシフト中に点灯します。

「沸き上げ中」表示

タンクのヒーターに通電が開始されると表示します。

「湯温」表示

タンク内湯温を表示していることを示します。

デジタル表示

給湯温度・タンク内湯温を表示します。

「停止日数」表示

温水器の沸き上げの停止している時に表示します。
(☞14ページ)

電力制度表示

加入された電力制度を表示します。深夜電力設定のとき点灯します。

「おふろ」ランプ

ふろ自動運転中は点灯します。「お好み」設定中は点滅します。

「おふろ」ボタン

ふろ自動運転を動作・停止します。
(☞16、17ページ)

「おはなし」ランプ

インターホン使用中、点灯または、点滅をします。

「おはなし」ボタン

浴室リモコンと会話（インターホン）をするときに使います。
(☞24ページ)

「給湯温度」ボタン

給湯温度を設定します。
(30℃～48℃、50℃、60℃)
(☞21ページ)

「⊗⊗」ボタン

現在時刻・沸き上げ停止・湯はり予約の設定をする時に使います。

マイク

インターホンを使用するときここに近づいて話しかけます。

「音量」ボタン

音声の大きさ、ブザーの音の大きさを調整します。
(☞23ページ)

「停止日数」ボタン

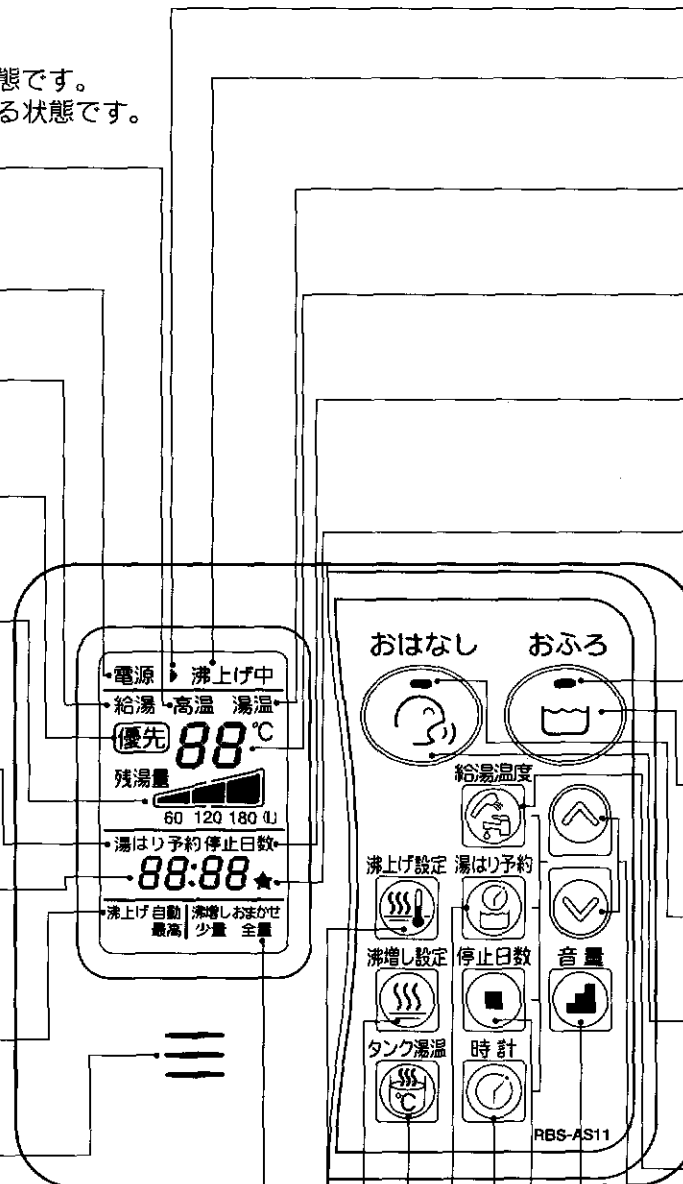
タンクの沸き上げを停止する日数を設定するのに使います。
(☞14ページ)

「時計」ボタン

現在時刻を合わせる時に使います。
(☞10ページ)

「湯はり予約」ボタン

自動湯はり完了時間を設定します。
(☞15ページ)



浴室リモコン

- イラストはフタが開いた状態です。
- けい光表示部の表示は全表示している状態です。
(ボタン操作がない時は全表示消灯しています。)

「おこのみ」表示

湯はり量が「おこのみ」設定になっていると表示します。
(☞22ページ)

湯はり水位表示

湯量を水位の目安として表示します。

デジタル表示

現在時刻・エラーコードを表示します。

「優先」表示

浴室リモコンが優先のときに表示します。

給湯温度表示

給湯温度を表示します。

湯はり温度表示

湯はり時の温度および初めの湯はり量を表示します。

「おふる」ランプ

ふろ自動運転中に点灯します。
「おこのみ」設定中は点滅します。

「おふる」ボタン

ふろ自動運転を動作、停止します。
(☞16、17ページ)

音声スピーカー

ここから音声案内がでます。

「ふろ湯温」ボタン

湯はりする湯温を設定します。
[35℃~48℃ (1℃刻み)]
(☞18ページ)

「優先」ボタン

リモコンの優先を設定します。

「音量」ボタン

音声の大きさ、ブザーの音の大きさを調整します。
(☞23ページ)

「給湯温度」ボタン

給湯温度を設定します。
30℃~48℃
50℃、60℃
(☞21ページ)

「 」ボタン

給湯温度、ふろ湯温、ふろ湯量を設定するときに使います。

「洗淨」ボタン

ふろ循環配管の洗淨の入/切を行います。
(☞26.27ページ)

「ふろ湯量」ボタン

湯はりする水位を設定します。
(4cm刻み、7段階)
(☞18ページ)

「差し水」ボタン

差し水 (約30℃) の入/切を行います。
(☞20ページ)

「足し湯」ボタン

足し湯の入/切を行います。
(☞20ページ)

「おはなし」ランプ

インターホン使用中は点灯または、点滅をします。

「おはなし」ボタン

メインリモコンと会話 (インターホン) をするときに使います。
(☞24ページ)

マイク

インターホンを使用するときここに近づいて話しかけます。

「高温」表示

給湯温度が高温であることを示します。

「高温差し湯」ボタン

高温差し湯の入/切を行います。
(☞19ページ)

「高温差し湯」ランプ

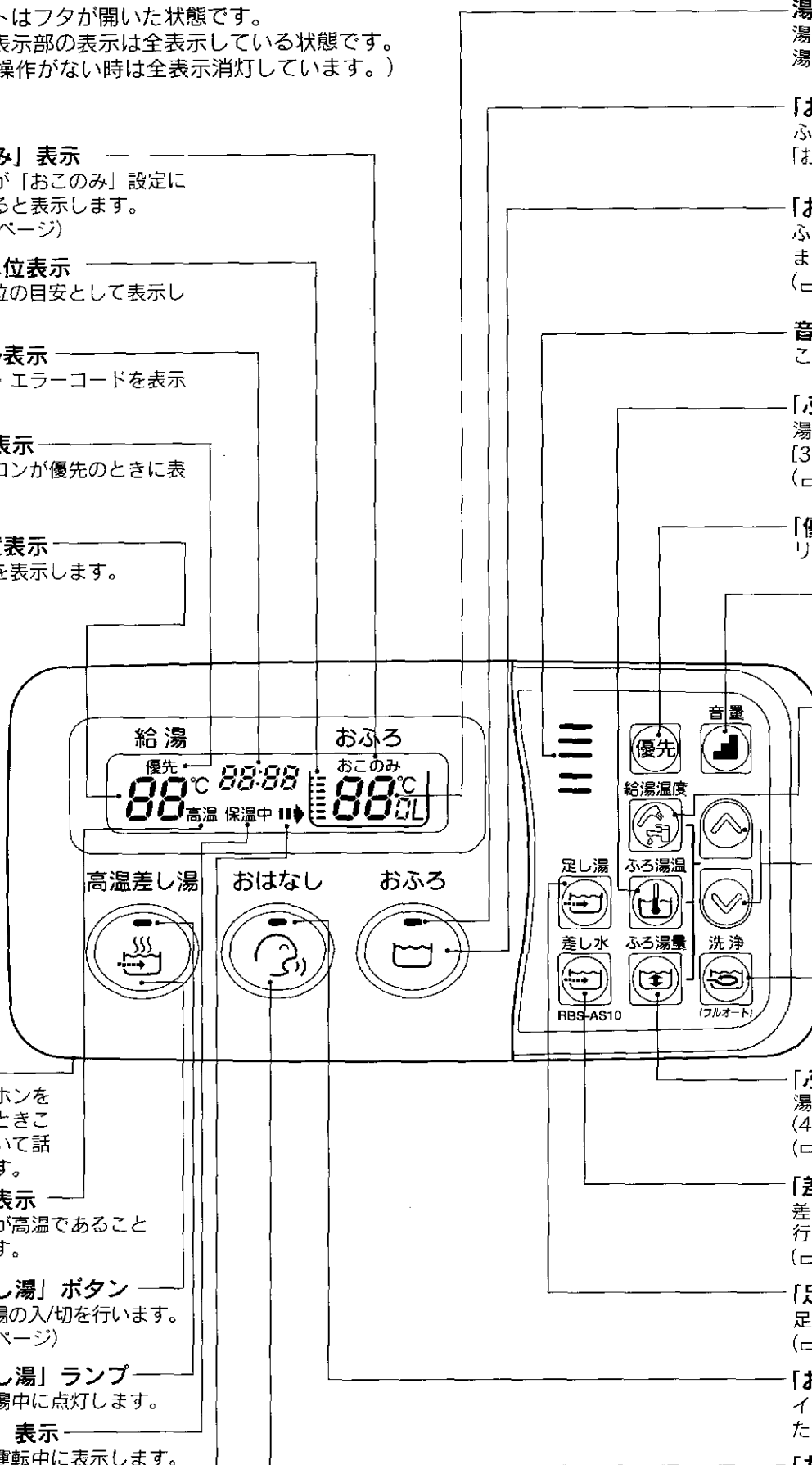
高温差し湯中に点灯します。

「保温中」表示

自動保温運転中に表示します。

矢印表示

浴槽に湯が給湯されていると表示します。



各部のなまえとほたらき

使い方

⚠ 警告

温水器の近くにガス類や引火物を置かないこと

発火の原因になります。



禁止

タンクが満水になっていることを確認してから通電すること

- ・満水にしないで通電すると負圧によりタンクが破損しやけどのおそれや水漏れの原因になります。
- ・水を入れなくて通電するとヒーターがパンクしたり故障の原因となります。



禁止

⚠ 注意

そのまま飲用しないこと

長期間のご使用によってタンク内に水あかがたまったり、配管材料の劣化等によって水質が変わることがあります。飲用される場合は、下記の点に注意し、必ず一度、ヤカンなどで沸騰させてからにしてください。

- ・必ず水質基準に適合した水を使用してください。
- ・熱いお湯が出てくるまでの水(配管内にたまっている水)は、雑用水としてお使いください。

固形物や変色、濁り、異臭があった場合には、飲用には使用せずに、直ちに点検の依頼を行ってください。



沸騰後飲用

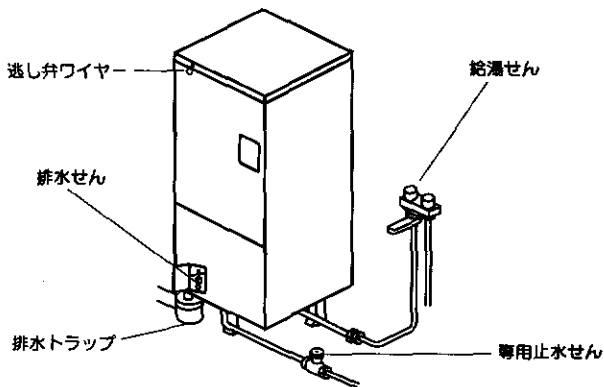
給水のしかた

最初は、タンクや配管内のゴミ・油などを洗い流すため、給水したら一度、全部排水し、再び給水してください。

1. 最初の給水のしかた

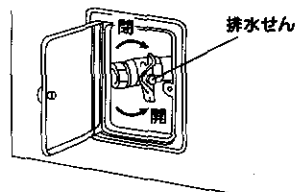
給湯せん、専用止水せんを開きます。

約20～30分で給湯せんから水が出てきます。



2. 排水のしかた

- (1)専用止水せんを閉じます。
- (2)給湯せん・排水せんを開きます。
- (3)約40分～50分で水が抜けます。(排水できないときは、逃し弁ワイヤーを引いて逃し弁を開けてください。)



3. 再給水のしかた

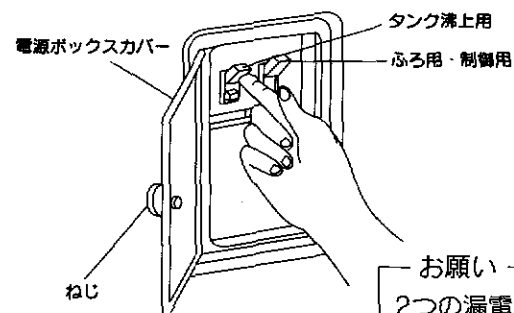
- (1)排水せんを閉じます。
- (2)専用止水せんを開きます。
- (3)給湯せんから水が出てきたら給湯せんを閉じます。

通電(沸上げ)のしかた

通電は、必ず給水をしてから行ってください。

1. 電源の入れかた

- (1)電源ボックスカバーのねじをゆるめてカバーを開けます。
- (2)漏電遮断器のレバーを2つとも必ず「入」にします。(560Lは3つです。)



お願い
2つの漏電遮断器を必ず「入」にしてください。(560Lは3つです。)

- (3)電源ボックスカバーをとじ、ねじを確実に締めます。

2. 現在時刻を合わせます

メインリモコンを使用して現在時刻を合わせます。(☞10ページ)

3. 今夜からお湯を使いたいときは沸増し設定をします

(時間帯別電灯のとき)

メインリモコンの沸増しボタンを押します。(☞13ページ)

現在時刻の合わせかた

※メインリモコンで操作します。

- 必ず現在時刻の設定をしてください。時間帯別電灯料金制度で使用する場合には、設定をしないとお湯を沸かすことができません。
- 誤った時刻を設定すると、湯量が不足したり思わぬ電気料金がかかることがありますので、現在時刻を正しく合わせてください。

つぎの手順に従って現在時刻を合わせてください。

例) ここでは13時45分に合わせることで説明します。

設定手順

1. 漏電遮断器のレバーを2つとも「入」にします(560 Lは3つです)



(左図のように表示されます)



2. 『時計』 ボタンを押します

デジタル表示部に0:00が表示されて、0が点滅します。



0:00

3. 『 』 ボタンを押して、13時に合わせます

『』 ボタンを押すと1時間ずつ数字が進みます。『』 ボタンを押すと1時間ずつ数字が戻ります。





13:00



4. 『時計』 ボタンを押します

デジタル表示部の00が点滅します。



13:00

5. 『 』 ボタンを押して45分に合わせます

『』 ボタンを押すと1分ずつ数字が進みます。『』 ボタンを押すと1分ずつ数字が戻ります。

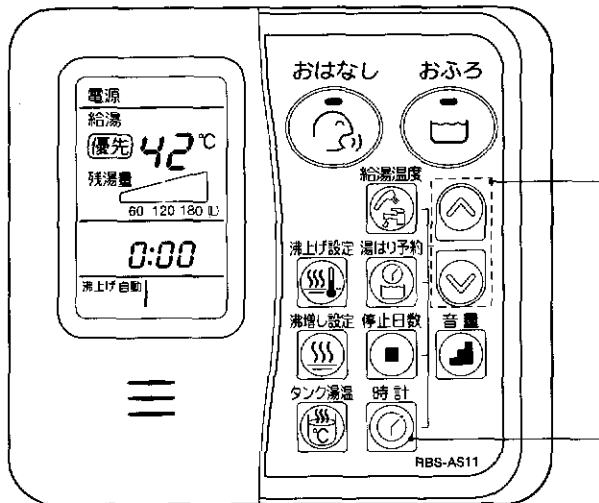


13:45

6. 『時計』 ボタンを押します

ボタンを押すと時刻が決定し、浴室リモコンにも時刻が表示されます。

7. 操作が終わったら必ずふたを閉めます。



メモ

現在時刻を設定されると、浴室リモコンにも自動的に現在時刻が表示されます。

お願い

- ・2時間以上の停電があると、現在時刻がリセットされます。この時は、設定手順に従って現在時刻の設定を行ってください。
- ・ときどき現在時刻表示を確かめてください。時刻のズレがあると電気料金が割高になることがあります。

使いかた

沸上げ設定のしかた

※メインリモコンで操作します。

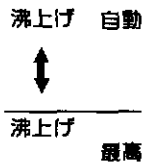
- ご家庭のお湯の使用量に応じて、タンクの沸上げる温度を2段階に選べます。
- 冬場の水の温度が低いときや、沸上げ中に停電があった場合には設定温度より低い温度に沸き上がります。
- 本体の設定により初期値は「自動」になっています。

設定手順

1. 『沸上げ設定』 ボタンを押します

ボタンを押すごとに表示が切り替わります。

湯温切替



2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

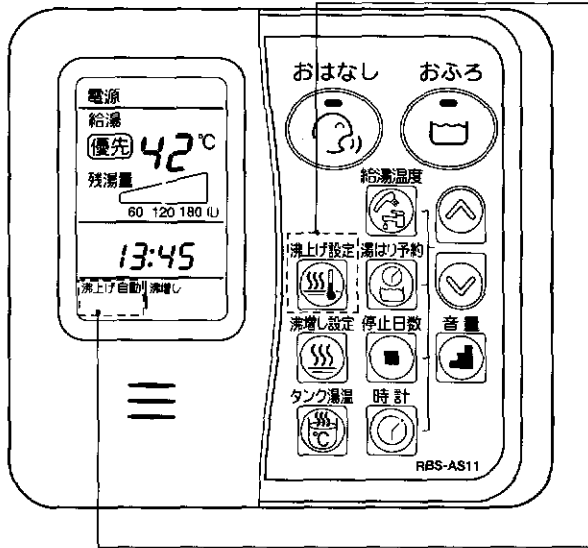
- 湯温調節のめやす

自動……約75℃～約90℃

(水の温度に応じて沸き上げる温度が変わります。)

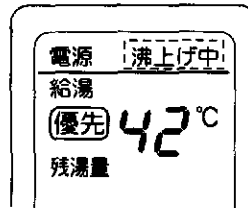
最高……約90℃

(水の温度が15℃未満のときは沸き上がりません。)



夜時間帯になり、タンク沸き上げ用ヒーターに通電されると『沸上げ中』が表示されます。(破線部)
タンク沸上げは夜間帯になってもすぐには通電されないことがあります。

マイコンが自動的に通電を開始するのを遅らせているため故障ではありません。



メモ

●来客があるときは

前日に湯温切替ボタンを押して「最高」に切り替えておきます。(「自動」のとき)



タンク湯温の表示のしかた

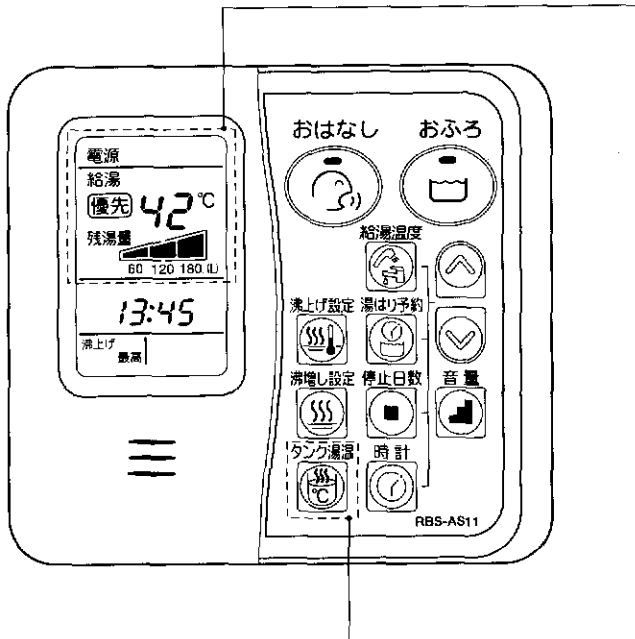
※メインリモコンで操作します。

- タンク内に残っているお湯の温度を確認できます。ただし、給湯せんから出てくる温度とは異なります。
- 表示した後は、約10秒後に自動的に現在時刻に戻ります。

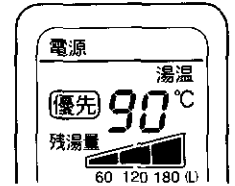
操作手順

1. 『タンク湯温』 ボタンを押します

ボタンを押すと約10秒間タンク内の温度が表示されます。



タンク湯温



2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

残湯量の見かた

※メインリモコンで表示しています。

- タンク内にお湯があると表示します。表示と表示に対するお湯の残量量は、下記の表の通りです。
- お湯が少なくなると音声とブザーの2段階でお知らせします。残湯が120L未満になると音声で「お湯が少なくなりました」残湯が60L未満になるとブザーでお知らせしますので必要に応じて沸増しを行ってください。
(深夜電力料金制度でご使用のときは沸増しできません)

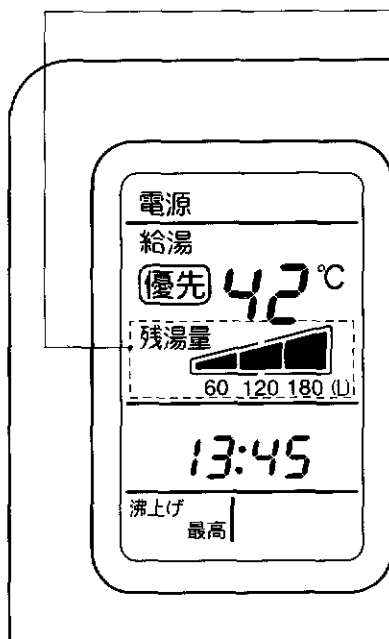


表 示	残 湯 量
残湯量 60 120 180 (L)	180L以上
残湯量 60 120 180 (L)	120L以上 180L未満
残湯量 60 120 180 (L)	60L以上 120L未満
残湯量 60 120 180 (L)	20L以上 60L未満
残湯量 60 120 180 (L)	20L未満

残湯が少なくなり、タンク沸き上げ用のヒーターに通電されると湯と水が混合され急に消灯することがありますが、異常ではありません。

夜9:00~朝9:00の間は音声及びブザー音を自動停止します。

[音声でお知らせ]

[ブザーでお知らせ]

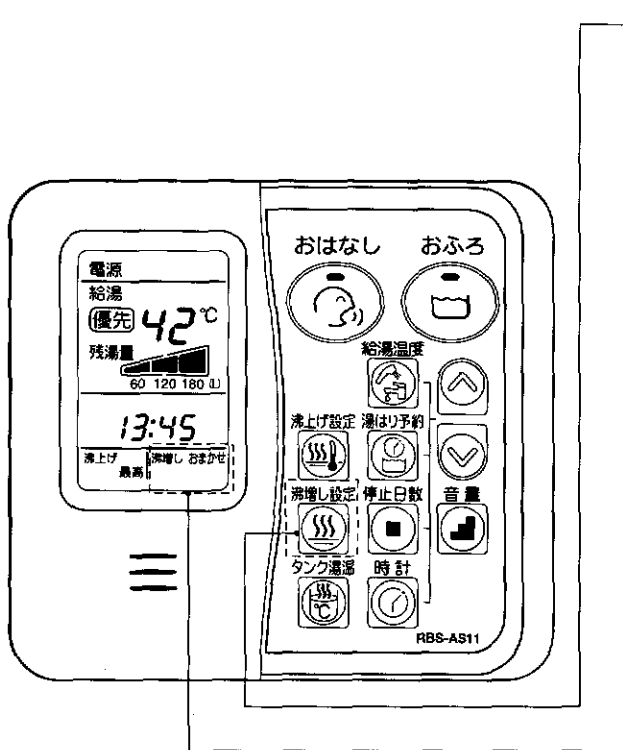
使いかた

沸増し設定のしかた

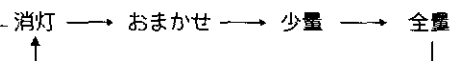
※メインリモコンで操作します。

- 『時間帯別電灯』で使用しているときに使用できます。「沸増し設定」は昼間の電気でお湯を沸かす機能です。
- 深夜電力料金制度でご使用の場合は『沸増し設定』はできません。
- ご家庭のお湯の使用量に応じて、タンクのお湯の『沸増し設定』が3段階で選べます。お湯の残り量をめやすに『沸増し設定』の設定をしてください。
- 来客などで、いつもよりたくさんのお湯が必要などときなどあらかじめ設定しておくとお湯が足りなくなるのを防ぎます。
- 『沸増し設定』をするとお湯をたっぷりと使えますが、昼間の電気を利用するので電気料金が割高になります。
- 現在時刻が設定されていないと『沸増し設定』はできません。

設定手順



1. 『沸増し設定』ボタンを押します
ボタンを押すごとに表示が切り替わり沸増しのパターンを変えます。



●沸増しのめやす

おまかせ…毎日湯切れの心配をしな
いでたっぷりとお湯を使
いたい(毎日継続して沸
きあげます)

少 量…タンクの湯がないため沸
かしてすぐシャワーを使
いたい(毎日継続して沸
増しを行います)

全 量…昼間お湯を使ってしまい
お湯が不足しそうなど
とき(設定した当日1回
だけ沸増しを行います)

2. 操作が終わったら必ずふたをしめ
ます

解除の方法

「沸増し設定」ボタンを押して表示を消灯
させます。

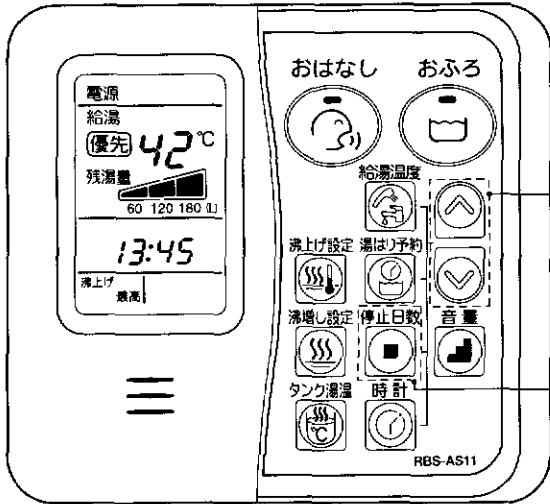
こんなとき 項目	毎日湯切れの心配をしな いでたっぷりとお湯を使 いたい	タンクの湯がないため沸かして すぐシャワーを使いたい	昼間お湯を使ってしまいお湯が 不足しそうなどとき
沸増し設定	おまかせ		
沸増しのしかた			
沸増しの条件	朝7時から夕方5時の間でお湯 を約60L使用すると何回でも 沸き増しを行う	夕方5時から夜間電力通電開始 時刻の間で残湯量が約60L未 満になると何回でも沸き増し を行う	残湯量が約60L未満になると何 回でも沸き増しを行う
解除の方法	「沸増し」ボタンを押して沸き増しの表示を消灯させる		
備考	夜の間に沸き上らなかつたとき に継続して約2時間余分に沸き 上げを継続する	予約解除しないかぎり毎日沸き 増し	予約解除しないかぎり毎日沸き 増し

沸上げ停止のしかた

※メインリモコンで操作します。

- 旅行などで家を留守にする間のお湯を使用しないときなどは、タンクのお湯の沸き上げを停止することができます。
- 沸き上げ停止日数は、2日から14日まで設定することができます。

設定手順



1. 『停止日数』 ボタンを押します
ボタンを押すと2の表示が点滅します。



2. 『ⒶⒷ』 ボタンを押します
ボタンを押すと停止日数予約の数字が増え(減り)ます。



3. 『停止日数』 ボタンを押します
ボタンを押すと、数字が点滅から点灯に変わり停止日数が決定します。

4. 操作が終わったら必ずふたをしめます

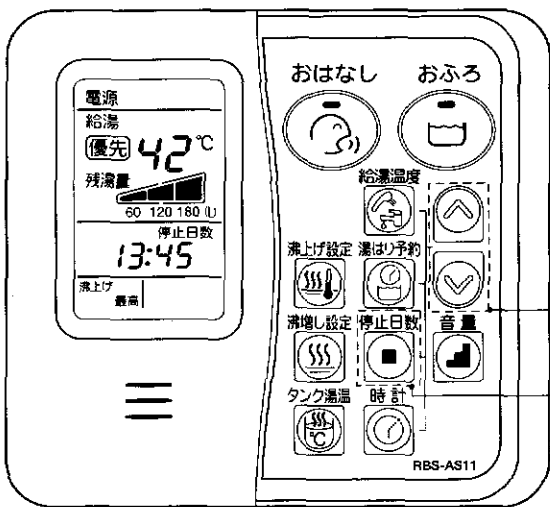
停止日数の決めかた

例) 2月1日に出発して、2月7日に帰宅する6泊7日の旅行の場合
6泊7日

出発日(2月1日)に停止日数予約6を設定する。
1日経過ごとに日数が1日ずつ減っていきます。

●沸き上げ停止の解除のしかた

・沸き上げ停止日数は、次の手順で解除してください。



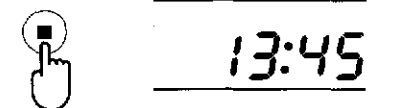
手順

1. 『停止日数』 ボタンを押します
停止日数が点滅します



2. 『ⒶⒷ』 ボタンを押す
ボタンを押して0に合わせます。

3. 『停止日数』 ボタンを押します
ボタンを押すと停止日数が解除されて10秒後に現在時刻が表示されます。



4. 操作が終わったら必ずふたをしめます

その他の解除方法
「停止日数」 ボタンを2秒以上の長押しをします。
表示が0に戻り、10秒後には現在時刻が表示されます。

使
い
か
た

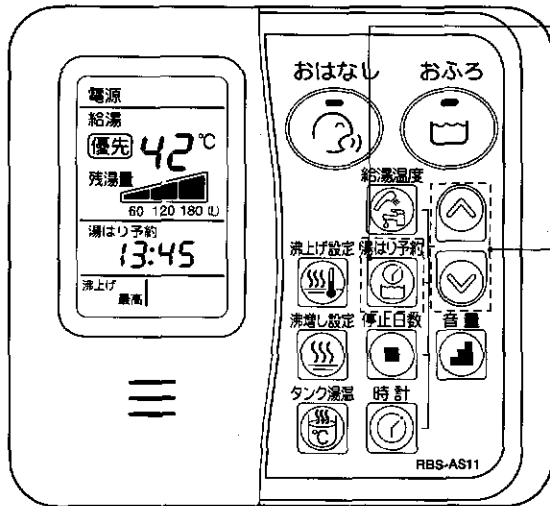
湯はり予約のしかた

※メインリモコンで操作します。

- 湯はり予約を設定すると、予約した時刻にお風呂にはいれるよう、自動的に湯はりを行います。
- 一回予約設定すると、設定時刻は記憶されますので、同じ時刻に予約するとき時刻を再設定する必要はありません。

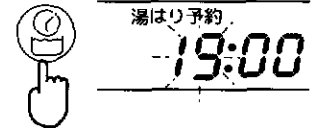
設定手順

(例) ここでは17時40分に合わせることで説明します。



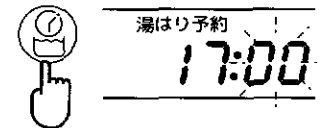
1. 『湯はり予約』 ボタンを押します

「湯はり予約」表示が点灯し、初めて設定する場合は「19:00」、2回目以降の場合は前回設定した時刻が表示され、「時(初回設定は19)」が点滅します。 湯はり予約



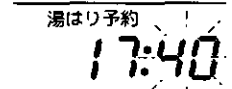
2. 『ⓈⓈ』 ボタンを押して17時に合わせて『湯はり予約』 ボタンを押します

「湯はり予約」ボタンを押すと「時」が決定し「分(初回設定は00)」が点滅します。 湯はり予約



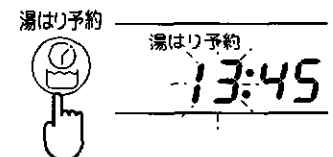
3. 『ⓈⓈ』 ボタンを押して40分に合わせます

湯はり予約時刻の設定は10分刻みです。



4. 『湯はり予約』 ボタンを押します

「湯はり予約」表示、湯はり予約時刻が点灯し設定完了です。表示は10秒後に現在時刻に切り替わります。 ※3分以内に「湯はり予約」ボタンを押さないと現在時刻表示に戻り「湯はり予約」は解除されます。



《湯はり予約・解除》

1. 『湯はり予約』 ボタンを3秒以上長押しします

「湯はり予約」表示が消灯し、現在時刻表示に戻ります。

2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

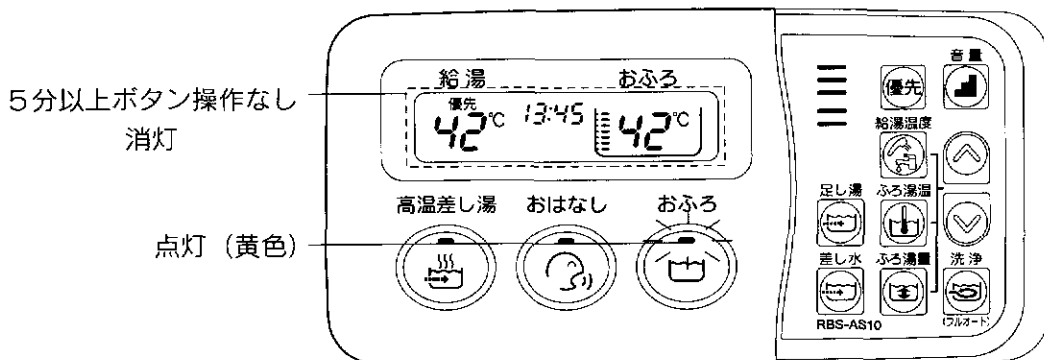
お願い

1. 「湯はり予約」はお風呂に入る時刻(湯はり完了時刻)の1時間以上前に設定してください。1時間以内に予約した場合は、予約した時刻に湯はりが完了しないことがあります。予約時刻30分以内の予約設定は受け付けません。
2. 現在時刻が合っていないと、予約した時刻に湯はりが完了しません。
3. 「湯はり予約」は湯はりが開始すると自動的に解除されますので、使用することに予約を設定してください。
4. 「湯はり予約」中に「ふろ自動」ボタンを押すと、「湯はり予約」は解除され、自動湯はり(ふろ自動運転)を行います。
5. 予約は浴槽を洗浄後、予め排水栓を閉めて浴槽に蓋をしておいてください。
6. 2時間以上の停電があると初期化されますので予約も解除されます。

湯はりのまえに

- 省エネのため、浴室リモコンのけい光表示部は5分間ボタン操作がないと消灯し、「おふろ」ランプが黄色に点灯します。（ふろ自動運転中や給湯温度の設定が50℃・60℃の時は消灯しません。）

けい光表示部が消灯しているときは、「おふろ」ボタンを1回押すと、けい光表示部が点灯し、操作ができるようになります。



5分以上ボタン操作なし
消灯

点灯 (黄色)

初めての湯はりのしかた

※浴室リモコンで操作します。

- 必ず浴槽の残り湯がないことを確認して、栓をしてください。
- 初めての湯はりには湯はり量を浴槽の大きさに合わせるために行います。湯はり完了まではカラン・シャワー等から湯を足さないでください。
- 初めての湯はりの時は、湯はり水位表示が全レベル点滅しています。

操作手順

1. 『ふる湯量』ボタンを押します



2. 『 』ボタンを押して湯はり量を決めます

初期値は180Lで、100~400Lまで20L刻みで設定できます。
設定の目安は1.25坪ユニットバスの浴槽で200Lです。

3. 『おふろ』ボタンを押します

ボタンを押すと「おふろ」ランプが点灯、矢印表示が点灯します。



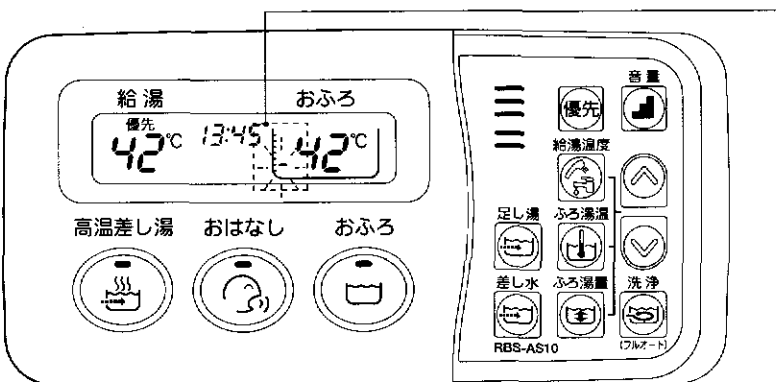
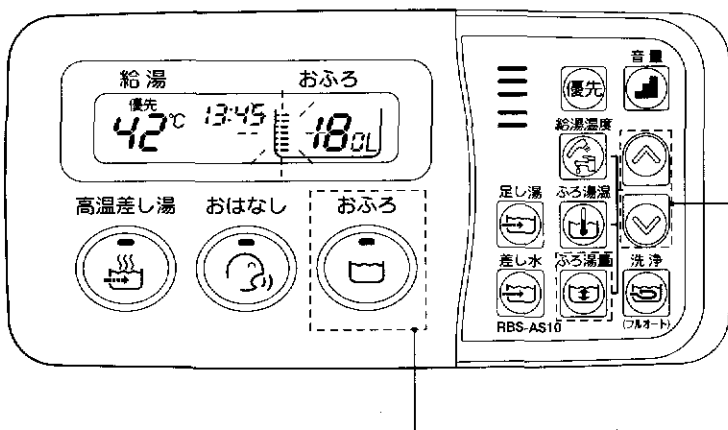
「湯はりをはじめます。」

4. 湯はりが完了すると、ブザー音でお知らせします

湯はりが完了すると、湯はり水位表示は下から4目盛目または2目盛目(大きな浴槽の場合)が点灯します。

「湯はりが終わりました。」

5. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

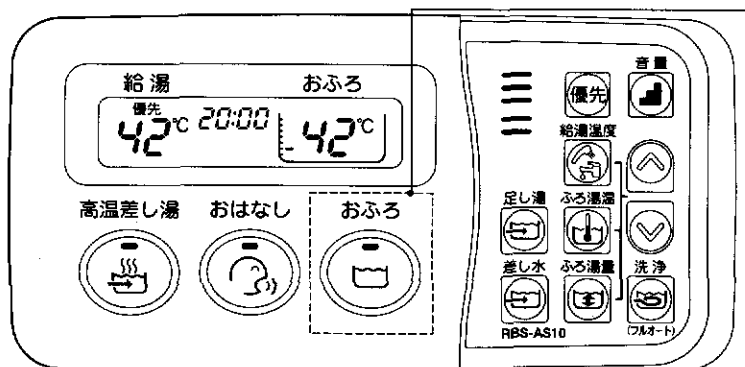


使
い
か
た

湯はりのしかた (ふろ自動運転)

※浴室リモコン・メインリモコンで操作します。

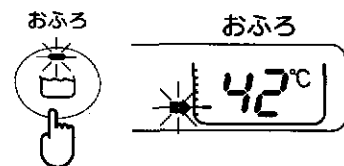
- 浴槽への湯はりは、浴室リモコンからでもメインリモコンからでもできます。
- ボタンを押すだけであらかじめ設定してある温度・水位 (湯量) で湯はりをします。
- 湯はりが終了すると、自動的に保温と足し湯をする自動運転を行います。自動運転継続時間は0~12時間、E、1時間おきに設定でき、初期設定は6時間です。
- 自動運転中は、「おふろ」ランプとメインリモコン表示部のバックライトが点灯します。
- 必ず浴槽の湯を排水してから湯はりしてください。正常に湯はりできなくなります。
- 特に初めての湯はりのとき、自動湯はり中にカラン・シャワー等から湯を足さないでください。正常に湯はりできなくなります。
- 設定温度は目安としてご使用ください。入浴する際には必ず浴槽の湯温を確認してください。適温で湯はりしていますが異常な動作により高温で湯はりし、ヤケドすることがあります。
- 必ず「ふろ自動運転」を解除してから浴槽の栓を抜いてください。正常に湯はりできなくなる場合があります。



設定手順

1. 『おふろ』ボタンを押します

ボタンを押すと「おふろ」ランプが点灯、矢印表示が点滅して湯はりを開始します。



「湯はりをはじめます。」

2. 湯はりが完了すると、ブザー音でお知らせします

「湯はりが終わりました。」

〈ふろ自動運転を停止するには〉

1. 『おふろ』のボタンを押します
2. 『おふろ』ランプ矢印表示が消灯し、ふろ自動運転を停止します

「湯はりを止めます。」

メモ

ふろ自動運転中「おふろ」ランプは点灯したままとなります。

メモ

残湯が60L未満のときには湯はりできません。(E: 22が発生します) 湯はり中に60L未満になると湯はりを停止し保温に移ります。

停電のとき

- ・ 5分以上の停電があると「ふろ自動運転」は解除されます。
- ・ 停電やりセットにより初期化された場合設定水位は消え、水位表示が全点滅しますので「初めての湯はりのしかた」により湯はりを行ってください。

ふろ自動運転中の動作説明

ふろ自動運転中の浴槽の中の状態と浴室リモコンの表示の関係は、次のようになっています。

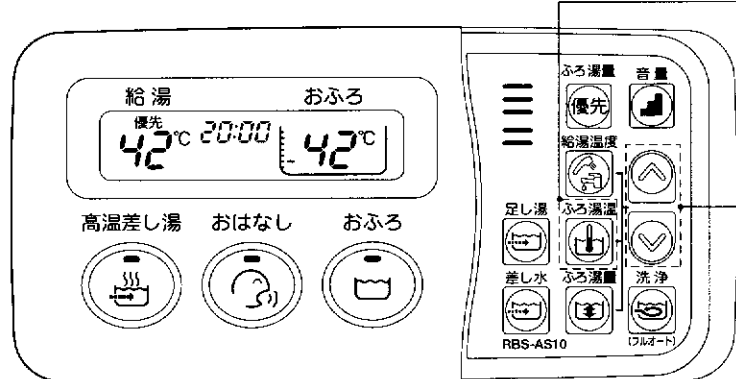
	1.湯はり中	2.湯はり完了	3.保温中	4.足し湯中
お風呂の状態				
浴室リモコンの表示				
	点滅		点灯	点滅

ふろ湯温の設定のしかた

※浴室リモコンで操作します。

- ふろ湯温は、ふろ湯はり(ふろ自動運転)をするときに浴槽の湯はり温度・保温温度を設定するものです。
- 設定できる温度は、35℃から48℃までの14段階です。
- 本体の設定により初期値は「42℃」になっています。
- ふろ湯温の設定はふろの湯はり完了時の浴槽内の温度ではありません。浴槽内の温度は季節や配管の温度状態により異なります。リモコンの設定は目安としてお使いください。

設定手順

- 
1. 『ふろ湯温』ボタンを押します
ふろ湯温
 2. 『⊕/⊖』ボタンを押してふろ湯温を設定します
ふろ湯温は⊕ボタンは1℃ずつ高く⊖ボタンは1℃ずつ低くなります。
 3. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

お願い

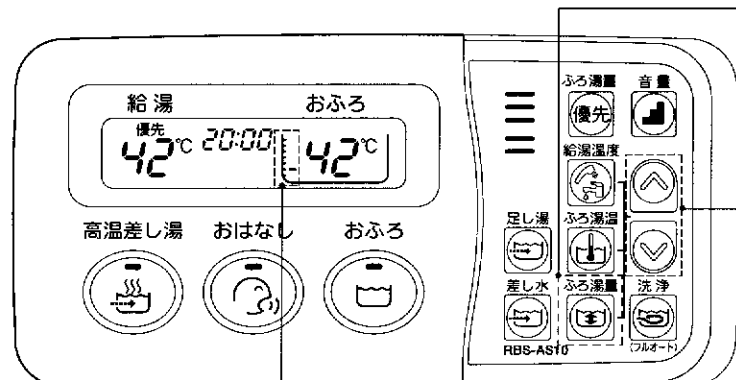
湯はり途中で湯温の変更を行なうと、設定した温度に湯はりできないことがあります。
(設定変更したときから変更した温度で湯はりをするからです。)

ふろ湯量の設定のしかた

※浴室リモコンで操作します。

- ふろ湯量は、ふろ湯はり(ふろ自動運転)するとき浴槽の湯はり水位・自動足し湯水位を設定するものです。
- 1目盛り約4cmで水位設定は7段階に切り替えることができます。設定した湯はり量は実際の湯はり量と異なることがあります。湯量の目安として表示しています。
- 本体の設定により「初めての湯はりのしかた」後は、下から4または2(大きな浴槽の場合)目盛り目になっています。
- 湯はり水位表示は目安として表示しています。

設定手順

- 
1. 『ふろ湯量』ボタンを押します
ふろ湯量
 2. 『⊕/⊖』ボタンを押してふろ湯量を設定します。
ふろ湯量は⊕ボタンは1目盛りずつ増え⊖ボタンは1目盛りずつ低くなります。
 3. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

お願い

1. 湯はり途中で湯はり量(水位)の変更を行うと、変更した水位まで湯はりします。ただし設定水位に達していると、湯はりを止めます。
2. 5分以上の停電があると『ふろ自動運転』は解除されます。また2時間以上停電が続くと、時計表示がリセットされ湯はり水位表示は全点滅になります。

使
い
か
た

高温差し湯のしかた

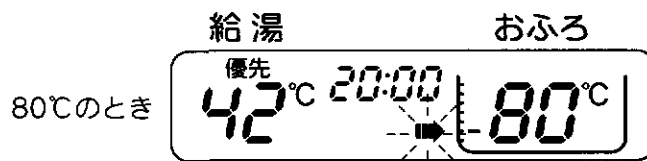
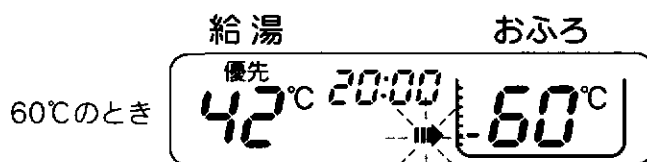
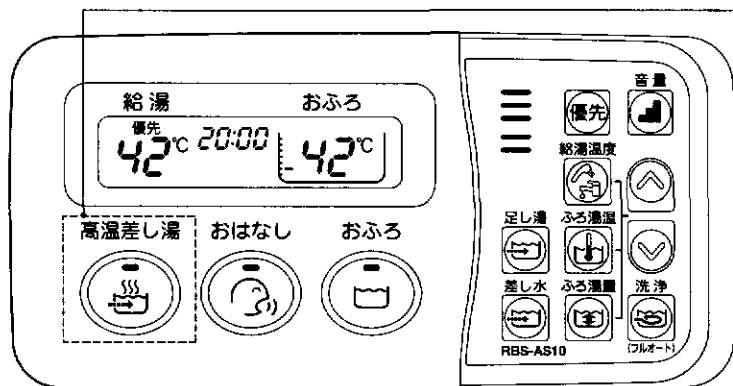
※浴室リモコンで操作します。

- 高温差し湯は、入浴中など湯温が下がったときに、短時間で湯温を上げたいときや、あつめのお湯にしたいときに使用します。
- 高温差し湯のボタンを押すと湯はり温度表示が60℃または80℃（ボタンの5秒間長押し）に変更され循環金具より浴槽内温度を約1.5℃（湯はり温度表示が60℃の時）上昇させる分の熱いお湯がでます。
- 高温差し湯は、湯はり中は利用できません。
- 高温差し湯が終了すると湯はり温度表示は湯はり温度に戻ります。
- タンク内の沸き上がり温度が低い場合には60℃または80℃の高温ができません。
- 残湯が60L未満のときは操作できません。（E:22が発生します）

操作手順

1. 『高温差し湯』 ボタンを押します

ボタンを押すと矢印表示が点滅し循環金具より約60℃のお湯が出ます。浴槽の大きさによりますが1回の操作で約1.5℃湯温が高くなります。また、ボタンを5秒間長押しすると循環金具より約80℃のお湯がでできます。



お願い

1. 高温差し湯中やポンプ循環のときに熱いお湯（約60℃または80℃）が出てきます。やけどすることがありますので体に直接あてないようにしてください。
2. タンクの湯温が60℃以下の場合には、高温差し湯の温度は60℃以下になります。

2. 高温差し湯を停止するには

「高温差し湯」ボタンを押します。

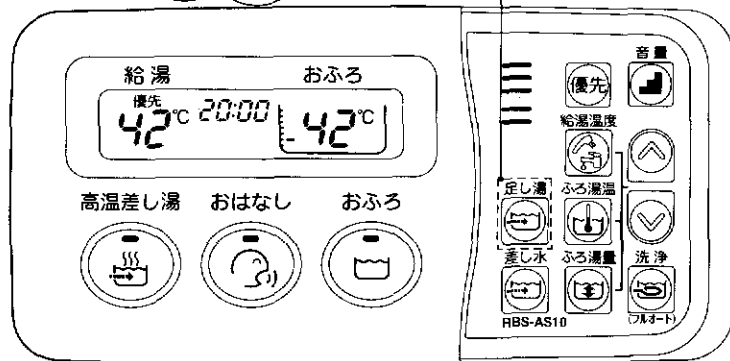
- ※ ボタンを押してもすぐには止まりません。適温を給湯して配管内に残った熱い湯を流します。
- ※ 高温差し湯終了後、ぬるく感じる湯が出てきますが、循環運転のため異常ではありません。

足し湯のしかた

※浴室リモコンで操作します。

- 足し湯は、たっぷりのお風呂にしたいときに使用します。
- 足し湯ボタンを押すとふろ湯温設定温度のお湯が約20L循環金具より出ます。
- 足し湯は、湯はり中使用できません。
- 残湯が60L未満のときは操作できません。(E:22が発生します)

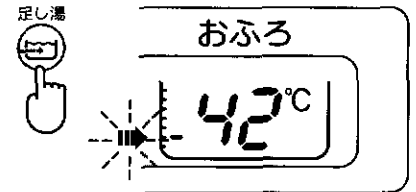
最初は配管内の熱いお湯が出る場合がありますのでヤケドに気をつけてください。



操作手順

1. 『足し湯』ボタンを押します

ボタンを押すと矢印表示が点滅し、循環金具より設定温度のお湯が約20Lでます。



2. 足し湯を停止するには

『足し湯』ボタンを押します。

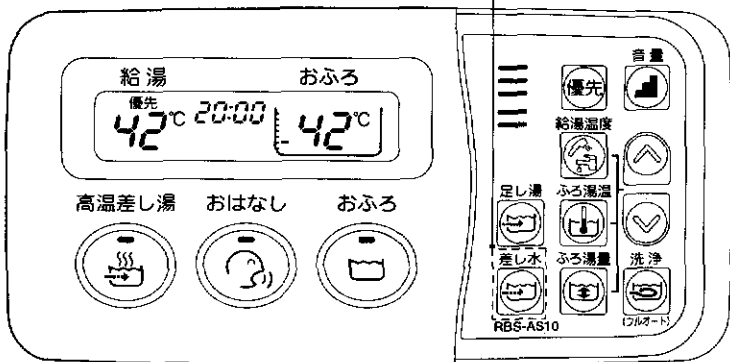
3. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

差し水のしかた

※浴室リモコンで操作します。

- 差し水は湯温が高く熱い時など湯温を下げたいときに使用します。
- 差し水のボタンを押すと湯はり温度表示が「30℃」に変更され、循環金具より約30℃のお湯が浴槽内温度を約1℃下げる分だけ出てきます。
- 差し水は、湯はり中使用できません。

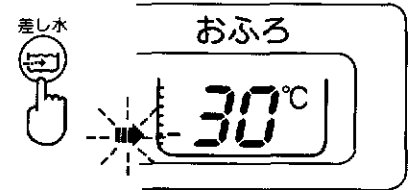
最初は配管内の熱いお湯が出る場合がありますのでヤケドに気をつけてください。



操作

1. 『差し水』ボタンを押します

ボタンを押すと矢印表示が点滅し、約30℃の湯が循環金具より1℃下げる分だけ出てきます。



2. 差し水を停止するには

『差し水』ボタンを押します。

3. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

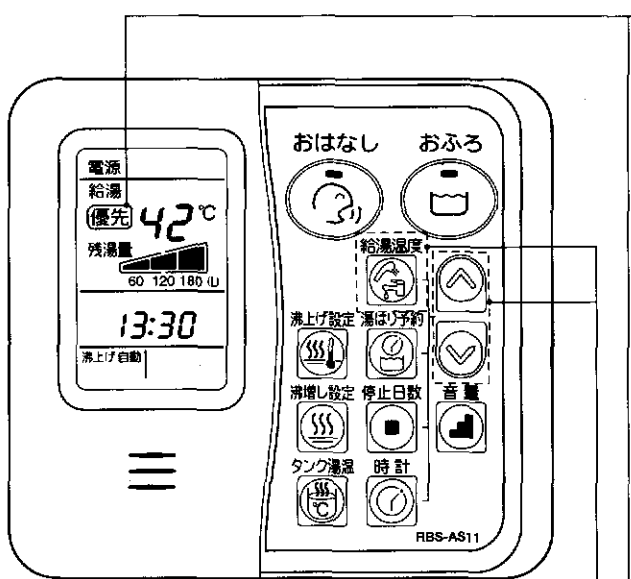
使
い
か
た

給湯温度の設定のしかた

※浴室リモコン・メインリモコンで操作します。

- 台所、洗面所、シャワーなどの給湯温度をまとめてお好みの温度に設定できます。
- 設定できる温度は30℃～48℃ (1℃刻み)、50℃、60℃です。
- 本体の設定により初期値は浴室リモコンに「優先」があり、「42℃」になっています。

操作手順

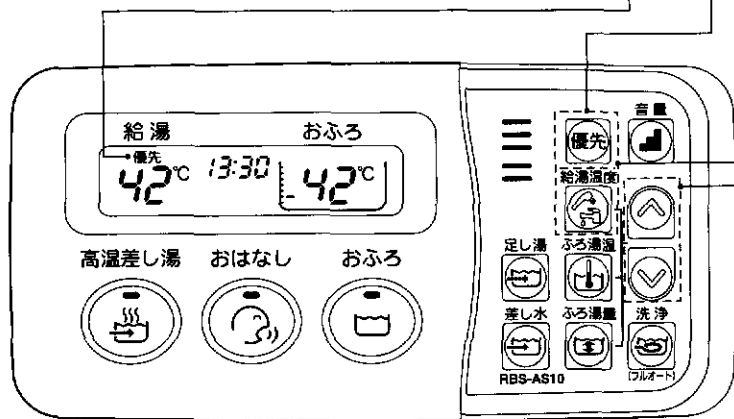


1. 『優先』を確認します

メインリモコンおよび浴室リモコンのどちらかに「優先」が表示されます。

●メインリモコンで給湯温度を設定する場合メインリモコンに「優先」表示が点灯しているか確認してください。表示が消えているときは浴室リモコンが「優先」となっていますので、浴室リモコンの「優先」ボタンを押して浴室リモコンの「優先」を解除してください。給湯中は「優先」の解除はできません。

●浴室リモコンで給湯温度を設定する場合浴室リモコンに「優先」表示が点灯しているか確認してください。表示が消えているときはメインリモコンが「優先」となっていますので、浴室リモコンの「優先」ボタンを押してメインリモコンの「優先」を解除してください。給湯中は「優先」の解除はできません。



2. 『給湯温度』ボタンを押します



⊕ボタンを押すと給湯温度は1℃ずつ高くなり⊖ボタンを押すと給湯温度は1℃ずつ低くなります。50℃、60℃を設定する時には48℃まで湯温を上げたのちに1秒程度まってから「⊕」ボタンを2秒以上押すと「50℃」に変わります。さらに続けて押すと「60℃」に変わります。

※他の給湯栓で使用「50℃」「60℃」に切替えることはできません。

3. 操作が終わったらふたを閉めてください

「優先」の表示しているリモコンで設定してある給湯温度の湯が蛇口より出湯されます。

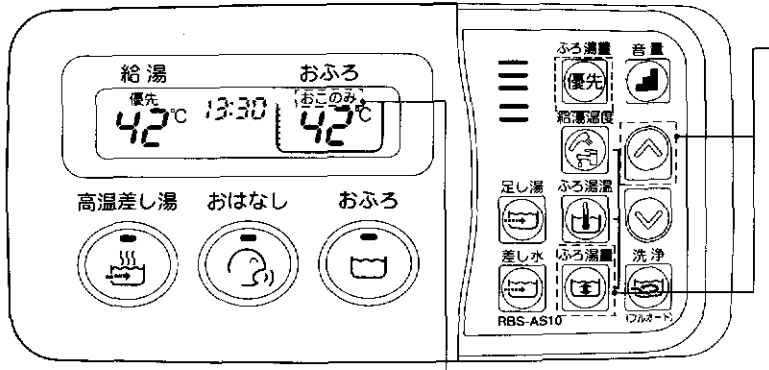
おこのみの使いかた

※浴室リモコンで操作します。

- 『おこのみ』の設定で使用すると、お客様のお好きな湯量で湯はりします。
- 『おこのみ』を使用する場合には、お客様のお好みの水位をあらかじめ設定していただきます。
- 1度設定すれば、解除するか、停電等で初期リセットがかかるまでお客様が設定した水位で湯はりをします。
- 設定中に停電が発生すると設定中は解除され初期の状態にもどります。
- 必ず循環金具が隠れる位置まで湯はりを行ってください。

操作手順

《おこのみ水位の設定》



1. 『ふる湯量』ボタンを押してから『⊙』ボタンを押し続けます

押し続けて湯はり水位表示を『最上位』まで変化させます。さらに2秒以上ボタンを押し続けます。

2. 湯はり水位表示が消灯し、『おこのみ』表示が点灯します

3. 『おふろ』ボタンを押します

ボタンを押すとおふろランプと「おこのみ」表示が点滅し湯はりを開始します。この時、湯はり量を計算していますので、他のカランからお湯を入れしないでください。

お湯を入れると湯はり量が正確に検知できません。

また、設定してから約10秒以内に湯はりを始めないと『お好み』を自動解除します

4. おこのみの水位になったら『おふろ』ボタンを押します

『おふろ』ボタンを押す

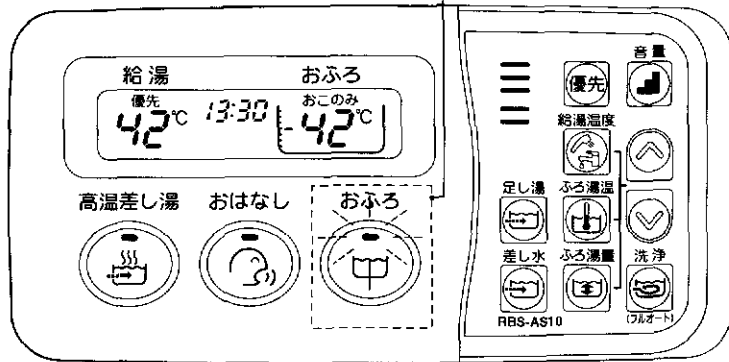
おふろランプ点灯
「おこのみ」表示点滅のまま

ポンプ循環

「おこのみ」表示点灯

設定完了し、自動運転

※湯はりを止めないとお湯はいつまでも続けます



「おこのみ」の水位になったら「ふろ自動」ボタンを押してください。
止めないとあふれます。

《使いかた》

『湯はりのしかた』と同じように使用します。このページを参照してください（▶17ページ）

《おこのみ設定解除》

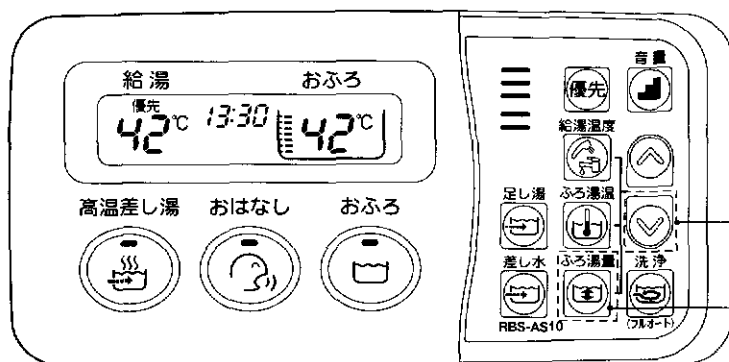
1. 『ふる湯量』ボタンを押してから『⊙』ボタンを2秒以上の長押しをします

押し続けると『おこのみ』表示が消灯し、『おこのみ』設定前の水位に設定されます。

2. 『ふる湯量』ボタンを押してから『⊙』『⊙』ボタンを押して適量に設定します

3. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

※ふろ自動運転中は、「おこのみ」設定解除はできません。



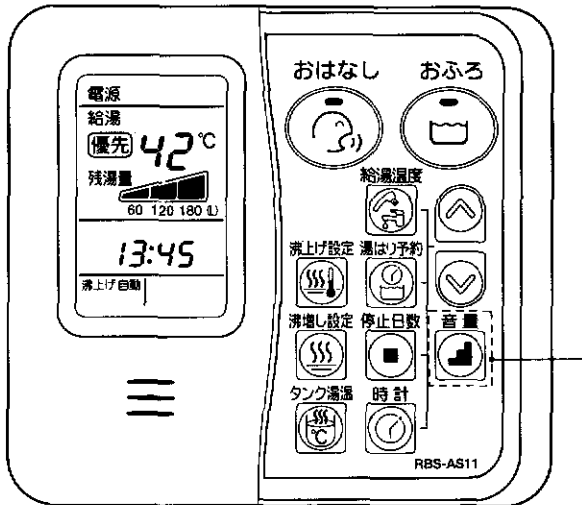
使
い
か
た

音量の調節のしかた

※メインリモコンで操作します。

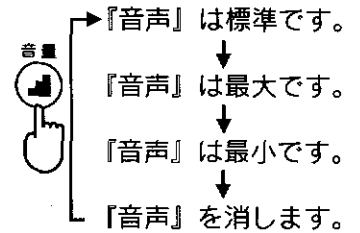
- 浴室リモコン・メインリモコンの音声案内の音量を調節したいときに使用します。
- 音量の調節は、音声案内中以外であればいつでも行えます。
- インターホンの音量調節はできません。

設定手順



1. 『音量』ボタンを押します

ボタンを押すごとに声の大きさを音声でご案内します。



2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

“『音声』を消します”にしても音量調節を知らせる音声、およびブザー音は消せません。
ただし、異常を知らせるブザー音は、午後9:00~午前9:00の間は、自動的に消音する仕様となっています。

○印：消音が可能です ×印：消音できません

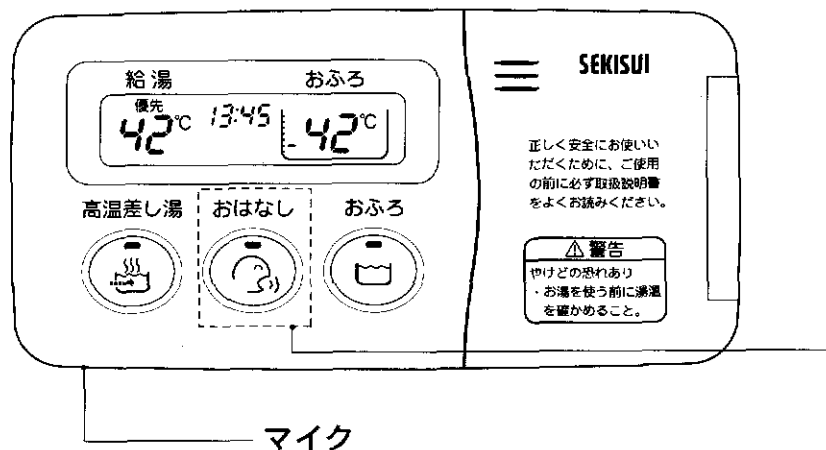
音声案内の内容	消音の可否
湯はりをはじめます	○
湯はりが終わりました	○
湯はりをとめます	○
お湯が少なくなりました	○
音声は標準です (最大・最少・消しますも含まれます)	×

インターホンのつかいかた

- 浴室リモコンとメインリモコンの間でインターホンとしてご使用できます。
- インターホンの通話時間は1分間です。1分たちますと、自動的に切れます。
- インターホンを使用しているときは、リモコンの表示が実際の動作とちがう場合があります。
- 浴室リモコン、メインリモコンどちらから呼び出す場合も手順は同じです。
- インターホンの音量調節はできません。

浴室リモコンから、呼び出すことで説明します。

設定手順



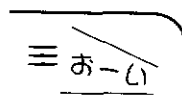
1. 『おはなし』ボタンを押します

浴室リモコン及び、メインリモコンが「ピーピーピー」と鳴り、「おはなし」ランプが点滅します。

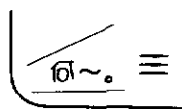


2. 『おはなし』ランプが点灯にかわったら『おはなし』ボタンを押しながら話しかけます

自分が話し終わったら、「おはなし」ボタンをはなします。

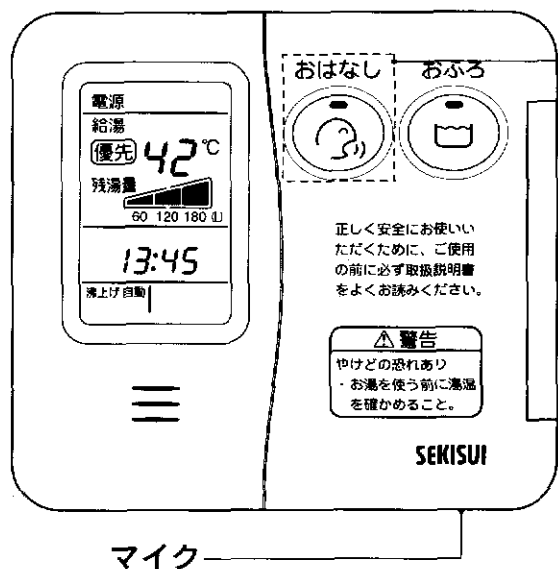


3. 相手側の応答も『おはなし』ボタンを押しながら話します



4. 1分間たつと、自動的に切れ「おはなし」ランプが消えます

1分間たつと話し中でも切れてしまいます。



1分後切れてから、5秒以内に「おはなし」ボタンを押すと、通話時間が1分間継続されます。
このとき「ピーピーピー」の音は鳴りません。

使
い
か
た

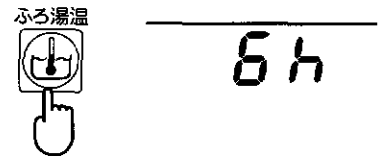
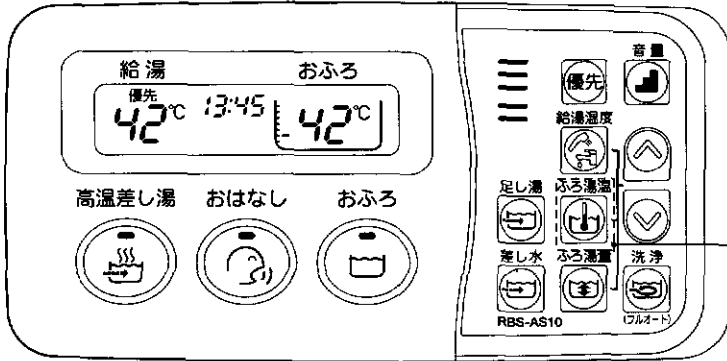
ふろ自動運転継続時間の設定のしかた ※浴室リモコンで操作します。

- ふろ自動運転の継続時間を0～12時間、1時間おきに設定できます。
- 本体の設定により初期値は「6時間」になっています。
- Eモードに設定すると、自動足し湯機能を停止し、自動保温運転のみとなります。(自動運転：6時間)
- ふろ自動運転継続時間を「0時間」に設定すると、湯はりした時点で停止します。(保温、足し湯動作はしません)

設定手順

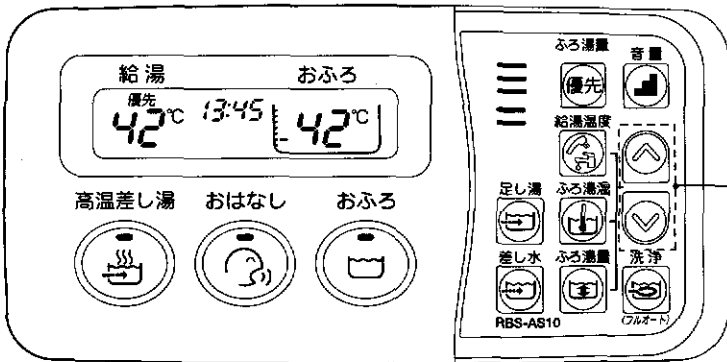
1. 『ふろ湯温』ボタンを5秒間押し続けます

初めて設定する場合は時計表示部に『6h』、2回目以降の場合は前回設定したふろ自動継続時間が表示され「時(初回設定は6)」が点滅します。



2. 『⊕⊖』ボタンを押します

⊕ボタンを押すとふろ自動運転時間が1時間ずつ増え⊖ボタンを押すとふろ自動運転時間が1時間ずつ減ります。また⊕ボタンを押していくと12の次にEが表示されてEモードになります。



3. 『優先』ボタンを押します(2秒以上)
これで設定は完了です。



4. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

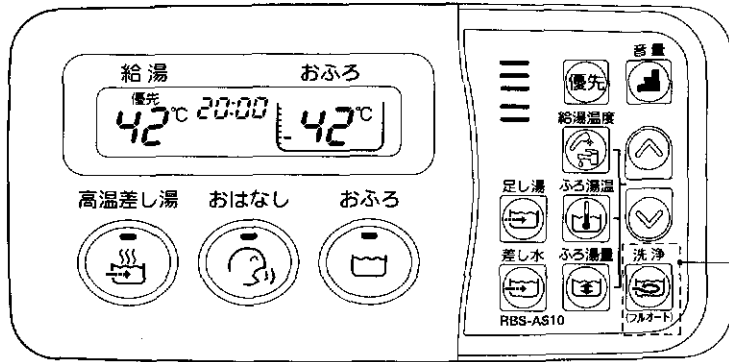
メモ

- 自動足し湯のみ停止するには「E」を選択
- 湯はりだけで停止するには「0」を選択

洗浄のしかた

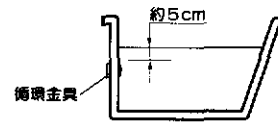
- 風呂循環配管の洗浄を行います。
- 洗浄を行うことで風呂循環配管への汚れの付着を軽減します。
- 洗浄は「風呂自動運転」を停止してから行ってください。
- 循環配管内の残り湯の洗い流し（週に1度行うことをおすすめします）と市販の洗浄剤を使って自動洗浄（月に1度行うことをおすすめします）することができます。

洗浄剤を使った自動洗浄 (月に1度行うことをおすすめします)



操作手順

1. 浴槽内の残り湯が循環金具上部より約5cm上になるように調節します



2. 浴槽に洗浄剤を入れます

3. 『洗浄』 ボタンを押します

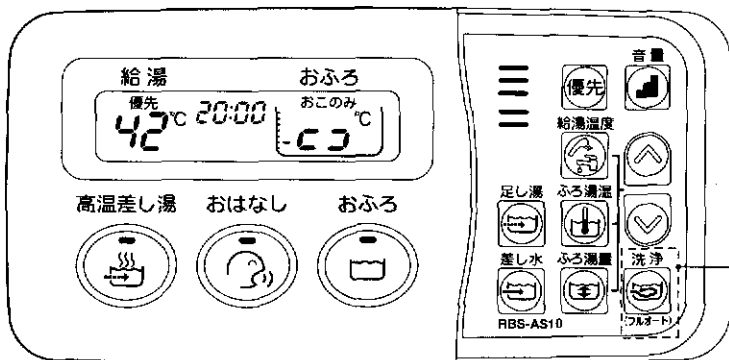
ボタンを押すと「風呂湯温」表示部が【】→【】→【】の表示をし、動作を開始し、約1時間ポンプ循環を行います。



4. ポンプ循環が終わるとブザーでお知らせします

5. 浴槽の排水栓を開いて排水します

6. 浴槽の排水栓を閉じます



7. 『洗浄』 ボタンを5秒以上押し続けます

風呂湯温表示部が【】→【】→【】の表示をし、約30℃の湯を往き、戻り配管に約100L流した後、自動的に約1時間ポンプ循環をし、洗剤を流します。



8. ポンプ循環が終了するとブザーでお知らせします

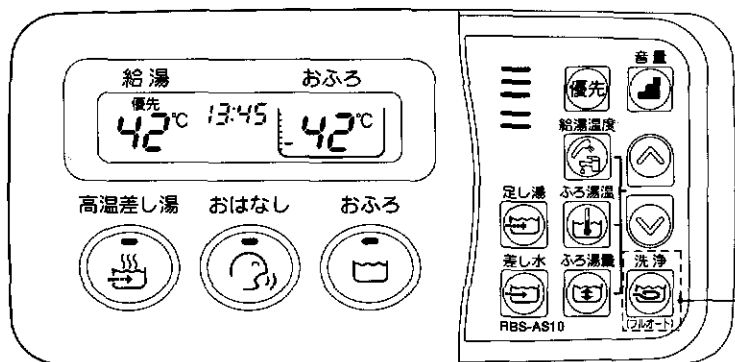
9. 浴槽の排水栓を開いて、排水し、浴槽を洗い流して終了です

使いかた

洗淨のしかた

※浴室リモコンで操作します。

洗い流し洗淨 (週に1~2度行うことをおすすめします)



1. 浴槽内の残り湯を排水します

2. 『洗淨』ボタンを押します

お風呂温度表示部が [] → [] → [] → [] の表示をし、約30℃の湯を往き戻り配管に約7Lずつ流し、循環配管内の残り湯を洗い流します。



- * 洗淨を途中で止めるには、「洗淨」ボタンをもう一度押します。
[] → [] → [] → [] → [] → [] → [] 表示が消えお風呂の温度表示にもどります。
- * このとき1度ポンプが動作しますが故障ではありません。
- * 操作が終わったら必ず浴室リモコンのふたを閉めてください。

非常用水の取りかた

- 非常用取水コックは、万一の災害による断水時にタンクのお湯（水）を生活用水として利用できるようにしたものです。
- 非常時以外は使用しないでください。

警告

非常用水は、熱湯が出るおそれがあります。やけどに注意すること

最初は水がでてきますが、熱湯がでてくる場合があります。



やけど

非常用水の採水時はバルブ本体に手を触れないこと

本体が熱くなりやけどをすることがあります。



やけど

注意

飲用しないこと

水質が変化した場合、下痢、腹痛など体をこわすことがあります。



飲用禁止

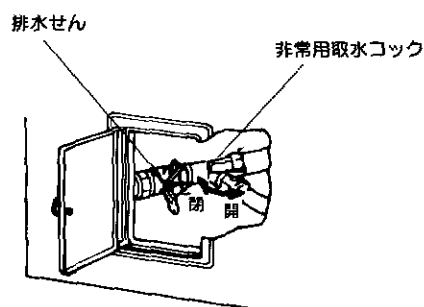
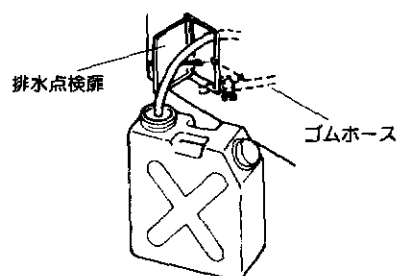
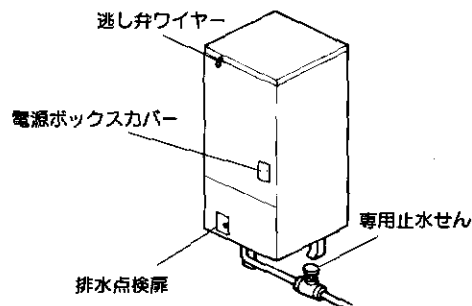
1. 非常用水の取りかた

- (1)電源ボックスカバーを開き漏電遮断器を「切」にします。
- (2)専用止水せんを閉じます。
- (3)排水点検扉を開き、内部のゴムホースを引き出しポリタンク等に導きます。
- (4)非常用取水コックを「開」にします。（排水せんは開かないでください。）
- (5)逃し弁ワイヤーを引きます。
- (6)必要量の非常用水が取れたら逃し弁ワイヤーを離し、非常用取水コックを「閉」にします。
- (7)ゴムホースを元に戻し、先ほど開いた扉をすべて閉じます。

コックを開いてすぐは汚れた水が出ますのできれいになってからご使用ください。

2. 通常運転への戻しかた

- (1)専用止水せんを開きます。
- (2)給湯せん開き、3分以上連続して給湯せんから水が出るようになったら閉めます。
(給湯せんから水が出て、配管内に空気がたまっている場合がありますので、必ず連続して水が出るようになるまで給水を続けてください。)
- (3)漏電遮断器を「入」にします。



使いかた

お願い

一日に使用できるお湯の量は限られています。お湯は大切にお使いください。

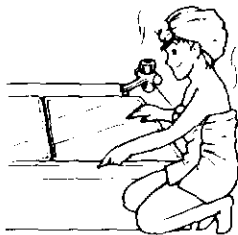
●お湯は容器に受けて使ってください

流し洗いは、お湯不足の原因になります。



●お風呂のふたは

浴槽には冷めやすいものもあります。
入浴後はふたをしてください。



●浴槽の「排水せん」の確認を忘れずに

- 湯はりするときは、必ず浴槽の「排水せん」をしてください
- 湯はりができず湯切れの原因となります。
- 残り湯は、必ず全部排水してください。
次に湯はりするときに、湯が溢れたり、湯温がぬるい原因となります。

●浴槽の湯をはらうときは

- 必ず「ふろ自動運転」を解除してから浴槽の栓を抜いてください。
正常に湯はりできなくなる場合があります。

●来客があるときは

前日に湯温切替ボタンを押して「最高」に切り替えておきます。（「自動」のとき）



●入浴時間は

夜間の通電時間前にすませるようにしてください。
通電時間中にお湯をたくさん使用すると、翌日に湯量が不足します。



●湯はりはお湯が沸いてから

- 湯が沸き上がっていないと湯はりができません。

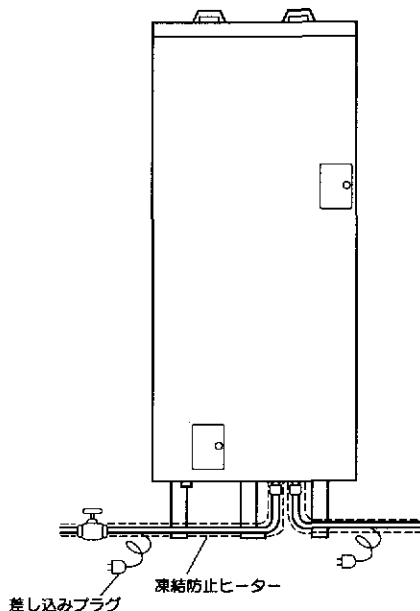
●入浴剤・洗剤のご使用は

- 硫黄、酸、アルカリを含んだ入浴剤や洗剤は、機器が腐食したり故障する原因となるものがありますので、入浴剤、洗剤の注意文をご覧の上ご使用ください。
- 浴槽に沈殿物が残るような入浴剤は使用しないでください。

凍結防止について

1. 凍結防止ヒーターによる方法

- 気温がマイナス10℃以下になると、保温工事をしていても凍結のおそれがありますので工事説明書どおりの配管工事をしてください。
- 水が凍るような時期になりましたら、図の凍結防止ヒーターの差し込みプラグを100ボルトのコンセントに差し込んでください。暖かくなりましたら、プラグをコンセントから抜いてください。

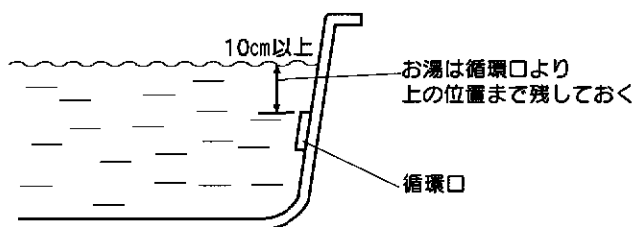


2. 浴槽にお湯を残す方法

外気温度が下がると、循環ポンプにより浴槽に残った湯を循環させて凍結を防止します。

お願い

- 浴槽に必ず湯を残してください。湯がないと凍結防止のための循環ができません。
- 循環路の凍結防止工事が確実にされている場合は、浴槽の湯を抜いても問題ありません。(製品内は凍結防止ヒーター付きです。)
- 電源は通電したままにしてください。通電していないと凍結防止のための循環ができません。



- 中間期（初冬・初春）でも外気温度により、循環ポンプが動作することがありますが異常ではありません。
- 浴槽にお湯を残していない場合でも、外気温度がさがると循環ポンプが動作し、循環金具から湯（水）が出ることはありますが異常ではありません。

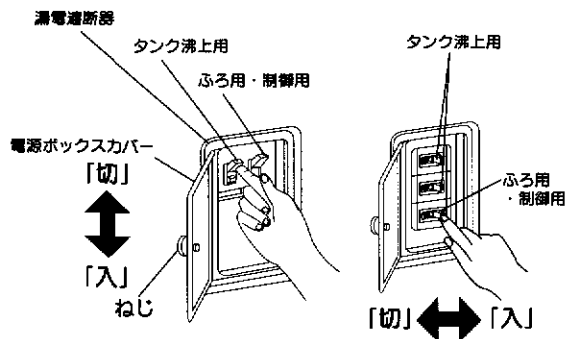
凍結防止ヒーター
使用時の注意
1. 凍結防止ヒーターは、必ず電源が通電している状態で使用してください。
2. 電源が通電している状態で、湯を抜くと、湯が冷たくなり、凍結防止ヒーターが動作し、湯が沸騰することがあります。
3. 湯を抜いた後は、湯を注ぎ、湯を循環させてください。
4. 湯を注ぎ、湯を循環させた後、湯を抜くと、湯が冷たくなり、凍結防止ヒーターが動作し、湯が沸騰することがあります。
5. 湯を注ぎ、湯を循環させた後、湯を抜くと、湯が冷たくなり、凍結防止ヒーターが動作し、湯が沸騰することがあります。
6. 湯を注ぎ、湯を循環させた後、湯を抜くと、湯が冷たくなり、凍結防止ヒーターが動作し、湯が沸騰することがあります。
7. 湯を注ぎ、湯を循環させた後、湯を抜くと、湯が冷たくなり、凍結防止ヒーターが動作し、湯が沸騰することがあります。
8. 湯を注ぎ、湯を循環させた後、湯を抜くと、湯が冷たくなり、凍結防止ヒーターが動作し、湯が沸騰することがあります。
9. 湯を注ぎ、湯を循環させた後、湯を抜くと、湯が冷たくなり、凍結防止ヒーターが動作し、湯が沸騰することがあります。
10. 湯を注ぎ、湯を循環させた後、湯を抜くと、湯が冷たくなり、凍結防止ヒーターが動作し、湯が沸騰することがあります。

通水後お使いにならないとき

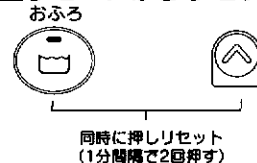
- 通水確認後や使用開始後、外気温が凍結温度までさがるような時期に、数日間お使いにならないときには、このチラシにしたがって対応してください。

対応方法

- お使いにならないときには、次の手順で各部の排水および水抜きを行ってください。
タンクの水は変質するおそれがありますので、必ずすべて排水してください。
- 各部の排水および水抜きのと、『ふろ用・制御用』電源のみ通電したままとしてください。
配管内等にわずかに残った水による、部品の凍結破損を防止するためです。

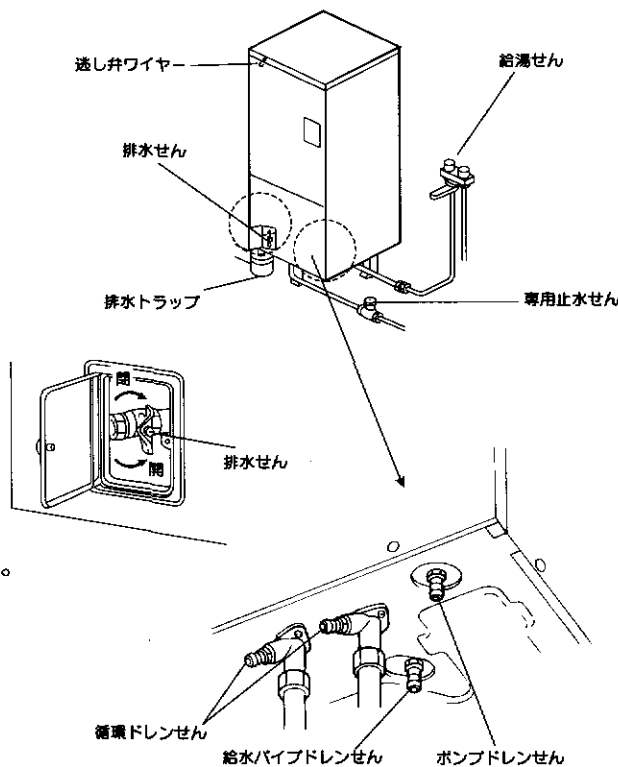


浴室リモコンからリセット



排水・水抜き方法

- ①漏電遮断器のレバー2つ(3つ)とも『切』にします。
- ②専用止水せんを閉じます。
- ③給湯せん、排水せんを開きます。
- ④約40分～50分で水が抜けます。(排水できないときは、逃し弁ワイヤーを引いて逃がし弁を開けてください)
- ⑤減圧弁水抜きせん、給水パイプドレンせん、循環ドレンせん、給水管および給湯管の水抜きせんを開きます。
- ⑥漏電遮断器の『ふろ用・制御用』を『入』にします。
- ⑦浴室リモコンの『お風呂』と『⊗』のボタンを同時に3秒以上押し、リセットします、これを1分間隔で2回行います。
- ⑧ポンプドレンせんを開きます。(屋内の場合には、洗面器等で水を受けてください)
- ⑨各部の水抜きが終わりましたら、ポンプドレンせん、循環ドレンせん、給湯せん、排水せん、減圧弁水抜きせん給水パイプドレンせん、給水管および給湯管の水抜きせんを閉じます。
※専用止水せんは閉じたままとしてください。
- ⑩各部の水抜きが完了したら、『ふろ用・制御用』の漏電遮断器を『入』のままつきにご使用になるまで放置してください。(『タンク沸上用』は『切』)



ふたたび使用するとき

- ①給湯せん、専用止水せんを開きます。
- ②給湯せんから水が出てきたら給湯せんを閉めます。
- ③『タンク沸上用』の漏電遮断器を『入』にします。
- ④以上で再使用が可能となります。
※今夜からお湯を使用されたい場合には、沸き増し設定をします。(時間帯別電灯契約の場合)
- ⑤『E: 5』『E: 6』等のエラーが発生することがありますが、メインリモコンまたは浴室リモコンで解除して使用してください。
※解除方法は取扱説明書の『エラー解除のしかた』をごらんください。

安全点検、お手入れのしかた

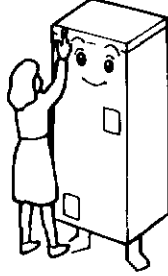
事故を防止するために下記の安全点検を必ず行ってください。

⚠️ 注意

逃し弁を点検すること
点検しないとタンクや配管が
破損したり逃し弁から水漏れ
したりすることがあります。



動作点検

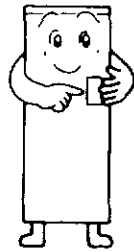


電源ボックスカバーは閉じておくこと

ショート・感電の原因
になります。ぬれた手
でさわらないでくださ
い。点検・操作の後は
必ずねじを締めてく
ださい。



確実に閉じる



安全点検

1 漏電遮断器の動作確認を

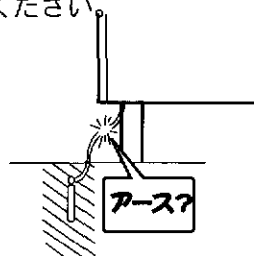
⚠️ 警告

漏電遮断器の動作を確認すること
漏電遮断器が故障のまま使用すると、漏電のとき
感電の原因になります。

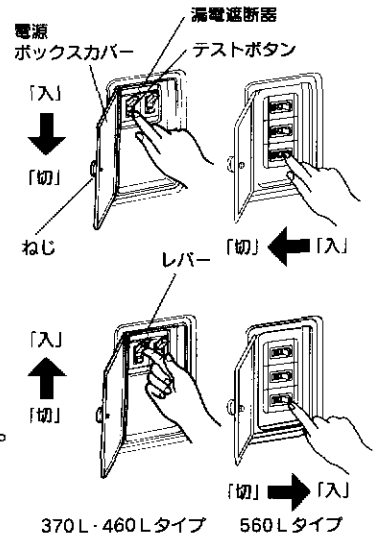
漏電遮断器は、万一漏電したとき自動的に電気を切
るための安全装置です。

●1か月に1回は、漏電遮断器の動作確認を通電時間内
に、つぎのように確認してください。

- (1)アース線が途中で切れ
ていないかどうか確認
してください。



- (2)電源ボックスカバーを
あけて、テストボタン
を押してください。
漏電遮断器のレバーが
「切」(OFF)になれば、
正常です。



- (3)テストのあとは、必ず
レバーを「入」(ON)に
もどし、電源ボックス
カバーを閉じて確実に
ねじを締めてください。

370L・460Lタイプ 560Lタイプ

2 逃し弁の動作確認を

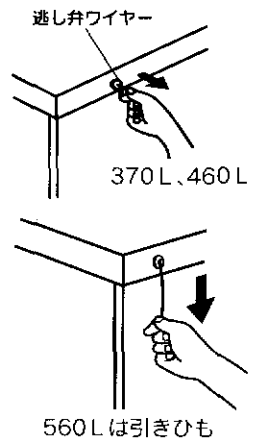
⚠️ 警告

逃し弁点検時は、排水管に手を触れな
いこと

やけどをすることがあります。

月に1度、逃し弁ワイヤーを2～3回引いて動作を
チェックしてください。

- ワイヤーを引いたとき排水し、
戻したとき排水が止まれば正
常です。(排水が確認できな
いときは水の音で排水された
ことを確認してください)



- 逃し弁の弁部に水アカの付着や、異物のカミ
込みがあると、逃し管より常にお湯が流れ出
て、湯量不足の原因となります。
- 逃し弁は水からお湯になるときの膨張分を排
水し、タンクを守る安全装置です。
逃し弁が正常に動作しないと、タンクが変形
し水漏れや故障の原因になります。

安全点検、お手入れのしかた
通水後お使用にならないときは

安全点検、お手入れのしかた (つづき)

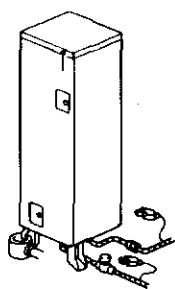
3 寒冷地では凍結防止を

⚠ 注意

凍結防止対策を確認すること

配管が破損してやけどをすることがあります。

- 気温がマイナス10℃以下になると、保温工事をしているにもかかわらず凍結のおそれがありますので施工説明書に従い、保温工事をしてください。



- 水が凍るような時期になりましたら、図の凍結防止ヒーターの差し込みプラグを、100ボルトのコンセントに差し込んでください。また、凍結の心配のない時期になりましたら、差し込みプラグをコンセントから抜いてください。



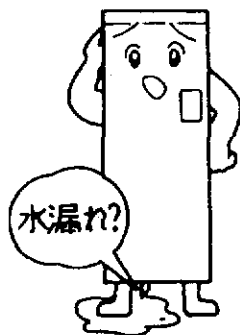
4 水漏れの点検を

⚠ 注意

水漏れを点検のこと

特に集合住宅では、漏水が階下へ被害を与えます。日常確認してください。

- 電気温水器を設置した床面に水が漏れていないか確認してください。



お手入れのしかた

1 ストレーナーの掃除

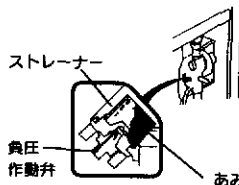
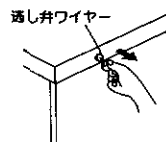
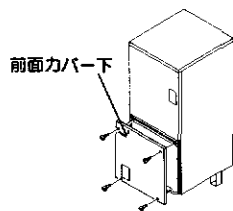
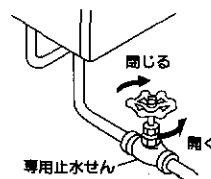
- 販売店に依頼して掃除を行ってください。

湯および水の出が悪くなったときは、減圧弁のストレーナーの掃除が必要です。

ストレーナーの掃除を行うときは次の手順に従って行ってください。

《手順》

- (1)専用止水栓を閉じます。
- (2)電気温水器用の配線用遮断器を「切」にします。
- (3)前面カバーのネジ4本をはずし、前面カバー下を取りはずします。
- (4)逃し弁ワイヤーを約1分間引きタンク内の圧力を抜きます。
- (5)減圧弁のストレーナーをはずし、あみを掃除します。(水を流しながらブラシ等でよく洗います。)この時、配管内に残っている残水が出てきますのでヒーターやその周辺のコネクター等に湯(水)がかからないように注意してください。
- (6)ストレーナーを組み付け、専用止水栓を開きます。水漏れがない事を確認してから前面カバーを取り付けてください。



2 お使いにならないとき

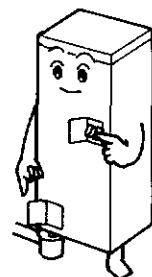
- 長期間お使いにならないとき

⚠ 注意

1か月以上使用しないときは漏電遮断器を「切」にしてタンクの排水をすること

水質が変化することがあります。

- 「排水のしかた」は9ページをご覧ください。
- 再びご使用になるときは、9ページの「給水のしかた」によりタンクが満水になったことを確かめてから、通電準備をしてください。
- 翌日、ご使用になるときは、給湯せんから最初配管内の空気と蒸気がでますので、やけどに注意してください。



3 タンク内の掃除を

⚠ 注意

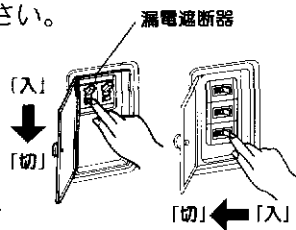
タンクの熱湯排水は直接しないこと

やけどをすることがあります。
タンク内の掃除をするときは、一度湯はりをした
後に行ってください。

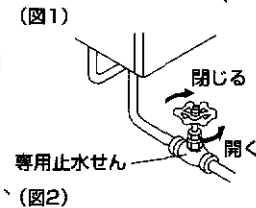
使用しているうちに水あかや沈殿物がタンクの底に
たまります。きれいなお湯をお使いいただくために、
必ず1か月に1回はつぎの手順で排水口から水あか
などを出してください。

タンク内のお湯を排水する場合には排水管が熱で変
形しないように、タンク内のお湯を使いきった後、
水になってから排水してください。

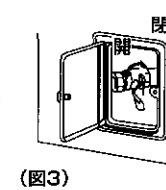
(1)漏電遮断器のレバーを「切」
にします。(図1)



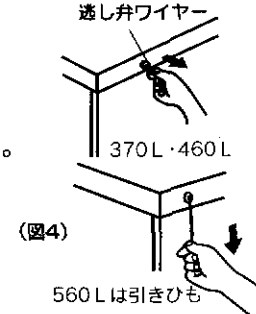
(2)専用止水せんを閉じます。
(図2)



(3)排水点検扉をあけ、排水せ
んを開きます。(図3)



(4)逃し弁ワイヤーを約2分間
引きます。(図4)



(5)よごれた水がきれいな水にな
ったら排水せんを閉じ、
排水点検扉を閉めます。
(図3)

※お湯が出てくること
があるので、ご注意くだ
さい。

(6)排水が終了したら専用止
水せんを開きます。(図2)

(7)排水口に水が出てくるまで
逃し弁ワイヤーを引きます。
(見えないときは音で確認
してください) (図4)

(8)漏電遮断器のレバーを「入」
にします。

4 断水、近くで水道工事が行われるとき

- 工事が行われる前に専用止水せんを閉じてください。
濁った水が減圧弁のストレーナーに目詰まりし湯
量が減少したり、お湯が濁る原因になります。
- 解除されたら専用止水せんおよび給水せんを開
いて、水がきれいになったのを確かめてから電気
温水器を使用してください。

5 過圧防止弁について

- 過圧防止弁排水口より水(または湯)が漏れている場
合は、配管システムまたは温水器に異常があります。
漏電遮断器のレバーをさげて
電源を「切」にし、専用止水
せんを閉じてお使いになるの
をやめてください。お買いあ
げの販売店に連絡をして修理
を受けてください。



6 リモコンの掃除の仕方

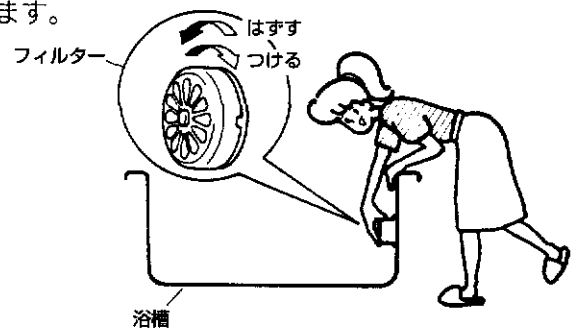
リモコンの表面が汚れたときは水に濡らしたやわらか
い布をかたく絞って、軽く拭き取ってください。
リモコン内部には電気部品が入っていますので、水を
かけないようにしてください。

※洗剤およびシンナー・ベンジン等は使用しないでく
ださい。

7 循環金具の掃除の仕方

浴槽内のフィルターをはずし、1週間に1回程度掃除を
してください。

掃除後はフィルターを確実に取り付けてください。
フィルターをつけずに使用しますと、故障の原因とな
ります。



定期点検のおすすめ

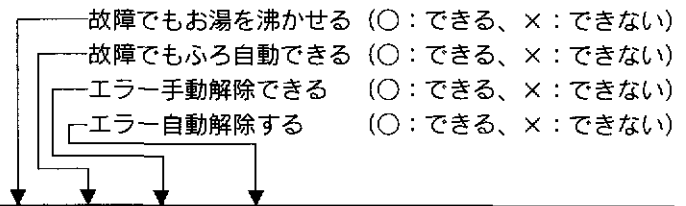
電気温水器を長時間安心してお使いいただくために、
専門の技術者がお客様に代わって細かく定期点検、部
品の交換(有料)をいたします。詳しくはお買いあげの
販売店にお問い合わせください。

安全点検、お手入れのしかた

エラーの表示と処理のしかた

※メインリモコン・浴室リモコンの両方に表示されます。

- この電気温水器には異常時の自己診断機能があります。
- 現在時刻表示部に次の表示が出ているときは下の表に基づいて点検およびお買い上げ店に修理の依頼を行ってください。



表示	原因	故障箇所・原因	タンク 沸上げ	ふろ 湯はり	エラー解除		対処方法
					手動	自動	
E:1	サーミスタ故障	水温湯温センサー	○	○	×	○	・センサーの確認 ・回路の断線開放確認 ・お買い上げ店に修理の依頼をしてください。
E:2	〃	残湯180Lセンサー	○	○	×	○	
E:3	〃	残湯120Lセンサー	○	○	×	○	
E:4	〃	残湯60Lセンサー	○	○	×	○	
E:5	深夜電力24時間停電	温水器側の電源投入が24時間中1度もなかった。	○	○	○	○	・停電 ・タイムスイッチ不良 ・漏電遮断器 ・引込み配線の断線 ・PC板コネクターの確認
E:6	深夜電力2時間以上停電	2時間以上の停電ありで沸上がらない	○	○	○	○	・タイムスイッチ ・漏電遮断器 ・長時間の停電
E:9	交信異常	リモコンと交信せず	○	×	○	○	・本体基板不良
E:10	サーミスタ故障	残湯20Lセンサー	○	○	×	○	・センサーの確認 ・回路断線開放確認 ・お買い上げ店に修理の依頼をしてください
E:20	浴槽栓抜け	ポンプ循環できず	○	×	○	×	・浴槽栓確認 ・配管状態確認 ・フロースイッチ不良、向き確認 ・循環ポンプ不良、三方弁不良
E:22	湯切れ	タンク内残湯60L未滿	○	×	○	○	・タンク内の残湯確認
E:23	湯残り	・浴槽に残り湯 ・フロースイッチ不良 (ONのまま)	○	×	○	×	・(設定-10℃)の残り湯あり ・フロースイッチ確認
E:25	設定水位ならず	自動足し湯中100L足し湯しても設定水位にならない	○	×	○	×	・排水栓抜け ・圧力センサー不良 ・流量センサー不良
E:27	湯はり完了せず	60分で180L未滿までしか湯はりできず	○	×	○	×	・専用止水せん確認 ・減圧弁ストレーナ確認 ・簡易ホッパー確認 ・水压確認
E:28	湯はり温度低い	給湯している温度が28℃以下で低い	○	×	○	×	・ミキシング不良 ・沸き上げ温度が低い ・センサー不良
E:29	湯はり温度高い	給湯している温度が(設定+10℃)以上で高い	○	×	○	×	・ミキシング不良 ・センサー不良
E:Hc	タンク温度異常	タンク内温度が95℃以上	×	○	○	×	・水温、湯温センサーの不良 ・本体PC板の不良 ・本体リレー故障
E:HP	タンク圧力異常	タンク内圧力350kPa以上	×	○	○	×	・本体PC板の不良 ・逃し弁不良
E:HL	タンク水位異常	タンク満水でない	○	×	○	×	・専用止水栓の確認

エラーの表示と処理のしかた (つづき)

表示	原因	故障箇所・原因	タンク沸上げ	ふろ湯はり	エラー解除		対処方法
					手動	自動	
H: 0	電動三方弁不良	三方弁の開閉口の位置検知できず	○	×	○	×	・電動三方弁の確認 ・ハーネスの断線・色確認
H: 1	流量センサー不良 簡易ポツパー不良	流量検知できず	○	×	○	×	・流量センサーの確認 ・給水電磁弁ONせず ・ハーネス断線・短絡
H: 2	水位センサー不良	・圧力変化せず ・異常圧力検知	○	○	○	×	・水位センサー不良 ・ハーネス断線・短絡
H: 3	給水電磁弁・流量センサー (簡易ポツパー)不良	給水電磁弁がONしていないのに流量検知	○	○	○	×	・流量センサー不良 ・給水電磁弁不良 (オープン)
H: 4	ふろサーミスタ不良	正常値検知せず	○	×	×	○	・センサー確認 ・ハーネス断線・短絡
H: 5	給湯サーミスタ不良	正常値検知せず	○	○	×	○	・センサー確認 ・ハーネス断線・短絡
H: 6	電動ミキシングバルブ 不良 (フロ側)	正常値検知せず	○	×	○	×	・電動ミキシングバルブの確認 ・ハーネスの色・断線確認
H: 7	電動ミキシングバルブ 不良 (給湯側)	正常値検知せず	○	○	○	×	・電動ミキシングバルブの確認 ・ハーネスの色・断線確認
H: 9	外気温センサー異常	正常値検知せず	○	○	×	○	・センサー確認 ・ハーネス断線・短絡 ・電動ミキシングバルブの確認 ・ハーネスの色・断線確認

エラーの表示と処理のしかた

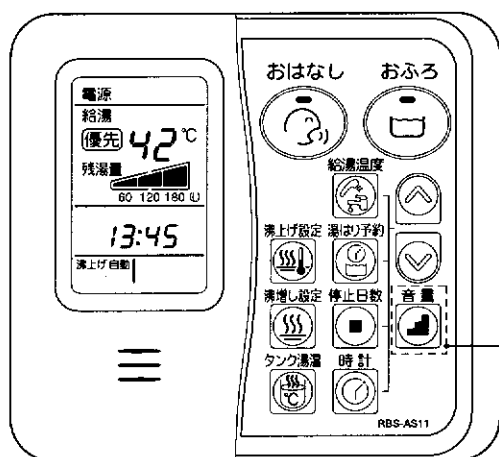
エラー解除のしかた

※エラーの解除は、メインリモコン・浴室リモコンの両方で行えます。

●リモコンの表示部にエラー表示した際には手順に従って解除してください。

●エラーには、解除できるものとできないものがあります。『エラーの表示と処理のしかた』をご覧ください。

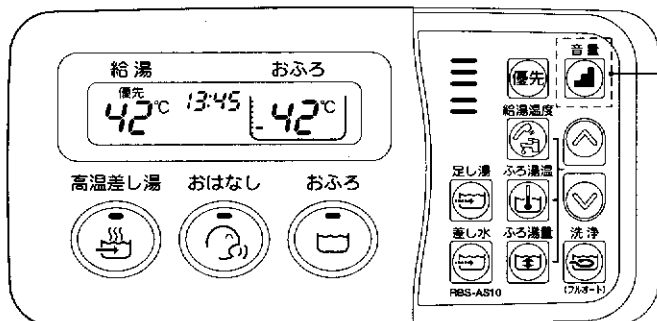
1. メインリモコンで解除するとき



操作手順

1. 『音量』 ボタンを3秒間押し続けます
ボタンを長押しするとエラーの表示が消灯し、現在時刻に戻ります。
2. 操作が終わったら必ずふたを閉めます

2. 浴室リモコンで解除するとき



手順

1. 『音量』 ボタンを3秒間押し続けます
ボタンを長押しするとエラーの表示が消灯し、現在時刻に戻ります。

このようなときには 修理を依頼される前につきのことを点検してください。

症 状	点 検 す る と こ ろ	直 し か た
お湯が出ない。 お湯の出が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> ● 給水圧が低いのですか。 ● 専用止水せんは開いていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水圧の確認を水道局へ依頼する。 ● 閉じていたら、開いてください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 断水ではありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水道局へ問い合わせてください。 (断水が終わるまで待ってください)
	<ul style="list-style-type: none"> ● 減圧弁のストレーナー部がつまっていませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 33ページの「ストレーナーの掃除」によりお手入れを依頼してください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 配管部分が凍結していませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● お買いあげの販売店にご相談ください。
お湯が沸かない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 配線用遮断器が「切(OFF)」になっていませんか。 ● 漏電遮断器のレバーが「切(OFF)」になっていませんか。 ※必ず2つとも(560Lは3つ)「入」にしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「切(OFF)」になっているときは、「入(ON)」にしてください。 ※2度、3度と「切(OFF)」になる場合は故障のおそれがありますので、お買いあげの販売店にご相談ください。
お湯がぬるい。 お湯が足りない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 湯温切替は適当ですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上のランクへ切替えてください。 (例えば <input type="checkbox"/>自動 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/>最高)
	<ul style="list-style-type: none"> ● 深夜電力の通電中にお湯をたくさん使用しませんでしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 翌日までお待ちください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● いつもにくらべてお湯をたくさん使用しませんでしたか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● タンクへの給水温度が15℃未満ではありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 湯温切替 <input type="checkbox"/>最高 のとき、お湯がなく、水温が15℃未満のときは90℃まで沸き上がりません。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 逃し弁の逃し管から昼間お湯が流れていませんか。 〔沸増し中は昼間でも逃し管から膨張水が排水されます。〕 	<ul style="list-style-type: none"> ● 32ページの「逃し弁の動作確認を」により、逃し弁の動作確認をしてください。 ● お湯が止まらないときは、逃し弁を交換してください。
濁ったお湯が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 近くで断水や水道工事はありませんでしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水がきれいになったのを確認してから電気温水器をお使いください。 34ページの「断水・近くで水道工事が行われるとき」をご覧ください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● タンク内の掃除をしていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 34ページの「タンク内の掃除を」によりタンク内の掃除をしてください。

事業者様へのご案内

『労働安全衛生法施行令(安衛法)令』改正について

1998年12月、『労働安全衛生法施行令』(以下安衛法)が改正され、電気温水器のタンク内圧が従来の『100kPa以下』から『200kPa以下』へと緩和され、高圧力型電気温水器の製造販売が認可されました。

安衛法の規定において、従来の電気温水器は『簡易ボイラー』に区分されますが、高圧力型電気温水器は『小型ボイラー』に区分されます。

簡易ボイラー：安衛法適用外、事務所・一般家庭に設置できます。

設置する際には、労働基準監督署への設置届け不要・定期自主検査の義務もありません。

小型ボイラー：今回の改正の対象は、伝熱面積40kW以下・水頭圧100kPaを超え200kPa以下の給湯器です。安衛法が適用になり、一般家庭に設置する場合は、簡易ボイラー同様設置届け・定期自主検査の義務はありません。ただし、事業所に設置する際には、労働基準監督署への設置届けが必要になり、定期自主検査、特別教育、事故報告も必要になります。

・取説記載対象形名：

AUF-37M4K

AUF-46M4K

AUF-56M4K

※事業所とは広く家庭用以外の用途で使用される場所を指します。ただし、同居の親族のみが使用する事業所は適用から外れます。

安全にお使いいただくために、必ずお読みになってから次の4つの項目を実施してください。なお、届出は事業者様が行うことになっています。

●設置報告

事業者様は高圧力型電気温水器を設置するとき、所轄労働基準監督署長に設置報告書を提出することが義務づけられています。

●定期自主検査

事業者様は高圧力型電気温水器の取扱いの業務に労働者をつかせるときは安全のために定期自主検査を実施することが義務づけられています。

●特別教育

事業者様は高圧力型電気温水器の取扱いの業務に労働者をつかせるときは安全のため特別教育を実施することが義務づけられています。

●事故報告

高圧力型電気温水器の事故等が発生したとき、事業者様は事故報告書を所轄労働基準監督署長に提出することが義務づけられています。

この事業者様へのご案内は

事業所設置の際の規定事項

設置報告

■適用法令→ボイラー及び圧力容器安全規則第91条

小型温水ボイラーを設置したときは、設置場所付近の状況や当該ボイラーが構造規格に適合しているかどうかを確認する必要がありますので事業者は、小型ボイラー設置報告書に構造図^{※1}及び小型ボイラー明細書^{※1}並びに小型ボイラーの設置場所の周囲の状況を示す図面^{※2}を添えて、所轄労働基準監督署長に提出してください。

小型ボイラーを同一事業場内で移転した場合には、新たな「設置」があったものとみなされ、小型ボイラー設置報告書の提出が必要になります。

※1 同梱されている明細書・構造図を使用して設置届けを行なってください。

※2 事業所内での小型温水ボイラーの設置位置を記載した地図を書いてください。

定期自主検査

■適用法令→ボイラー及び圧力容器安全規則第94条

事業者様は小型温水ボイラーの使用を開始した後、1年ごとに1回、定期的に次の項目について自主検査を行ってください。

本体	・製品本体からの漏れの有無 ・逃し弁の動作状態および漏れの有無 ・漏電遮断器の動作状況 ・タンクの手入れ
配管	・損傷と漏れの有無

検査方法の詳細は、取扱説明書の(28~30ページ)「安全点検、お手入れのしかた」を参照してください。

なお、自主検査を行なった後は、検査結果を記録用紙に記入し、3年間保存してください。

特別教育

■適用法令→ボイラー及び圧力容器安全規則第92条

事業者様は小型温水ボイラーの取扱い業務に労働者をつかせるときは、当該労働者に対し、安全のための特別の教育を行なってください。

特別教育の科目

- ① ボイラーの構造に関する知識
- ② ボイラーの付属品に関する知識
- ③ 関係法令
- ④ 小型ボイラーの運転及び保守
- ⑤ 小型ボイラーの点検

事業者様は、特別教育を行ったときは、当該特別教育の受講者、科目等の記録を作成して、これを3年間保存してください。なお特別教育の科目の全部又は一部について十分な知識及び技能を有していると認められる労働者は、当該科目についての特別教育を省略することができます。

同梱の取扱説明書を使用して、製品の取扱い説明を行なってください。

事故報告

■適用法令→労働安全衛生規則第96条

事業者様は、小型ボイラーの破裂の事故などが発生したときは遅滞なく、様式第22号による報告書を所轄労働基準監督署長に提出してください。

関係法令

(1) ボイラー及び圧力容器安全規則

設置報告

第91条 1 事業者は、小型ボイラーを設置したときは、遅滞なく、小型ボイラー設置報告書（様式第26号）に機械等 検定規則第1条第1項第1号の規定による構造図及び同項第2号の規定による小型ボイラー明細書（同規則第4条の合格の印が押されているものに限る。）並びに当該小型ボイラーの設置場所の周囲の状況を示す図面を添えて、所轄労働基準監督署長に提出しなければならない。

定期自主検査

第94条 1 事業者は、小型ボイラー又は小型圧力容器について、その使用を開始した後、1年以内ごとに1回、定期に、次の事項について自主検査を行わなければならない。ただし、1年をこえる期間使用しない小型ボイラー又は小型圧力容器の当該使用しない期間においては、この限りではない。

- (1) 小型ボイラーにあつては、ボイラー本体、燃焼装置、自動制御装置及び付属品の損傷又は異常の有無
- (2) 小型圧力容器にあつては、本体、ふたの締付けボルト、管及び弁の損傷又は摩耗の有無

2 事業者は、前項ただし書の小型ボイラー又は小型圧力容器については、その使用を再び開始する際に、同項各号に掲げる事項について自主検査を行わなければならない。

3 事業者は、前2項の自主検査を行なったときは、その結果を記録し、これを3年間保存しなければならない。

特別教育

第92条 1 事業者は、小型ボイラーの取扱いの業務に労働者をつかせるときは、当該労働者に対し、当該業務に関する安全のための特別の教育を行わなければならない。

2 前項の特別の教育は、次の科目について行なうものとする。

- 1 ボイラーの構造に関する知識
- 2 ボイラーの付属品に関する知識
- 3 燃料及び燃焼に関する知識
- 4 関係法令
- 5 小型ボイラーの運転及び保守
- 6 小型ボイラーの点検

3 安衛則第37条及び第38条並びに前2項に定めるもののほか、第1項の特別の教育の実施について必要な事項は、労働大臣が定める。

(2) 労働安全衛生規則

事故報告

第96条 1 事業者は、次の場合は、遅滞なく、様式第22号による報告書を所轄労働基準監督署長に提出しなければならない。

- (1～2略)
- 3 小型ボイラー、令第1条第5号の第一種圧力容器及び同条7号の第二種圧力容器の破裂の事故が発生したとき
(以下略)

高圧力型電気温水器（小型温水ボイラー）に適用される法令として以下のものがあります。

- 労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）
- 労働安全衛生法施行令（昭和47年政令第318号）
- 労働安全衛生規則（昭和47年労働省令第32号）
- ボイラー及び圧力容器安全規則（昭和47年労働省令第33号）

事業者様へのご案内

仕様 (フルオート)

形 名	AUF-37M4K	AUF-46M4K	AUF-56M4K	
項 目	高圧力型電気温水器			
	防 雨 形			
	マイコン節電タイプ			
適応料金制度	時間帯別電灯/深夜電力(通電制御)切替式			
タンク容量	370L	460L	560L	
定 格	温 水 器	単相200V-4.4kW	単相200V-5.4kW	単相200V-6.4kW
	保 温	単相200V-1.0kW		
	ポ ン プ	単相200V-100W (50Hz) / 124W (60Hz)		
	制 御	単相200V-30W		
	周 波 数	50/60Hz共用		
タンク沸上り温度	自動:約75~90℃(水温により可変) 最高:約90℃			
給湯温度	30℃~48℃(1℃刻み19段階)、50℃、60℃			
質量(満水時)	72kg(442kg)	81kg(541kg)	91kg(651kg)	
形 状	角形配管内蔵(減圧弁・逃し弁・風呂給湯機能内蔵)			
外形寸法	幅	700mm	700mm	700mm
	奥行き	700mm	800mm	800mm
	高さ	1800mm	1800mm	2100mm
安全装置	自動温度調節器・温度過昇防止器・漏電遮断器・過圧防止弁・異常過圧防止・フローズスイッチ			
配管口径	給水口・給湯口・排水口:R3/4(おねじ) 給湯口(ふる)R1/2			
配管方式	減圧弁方式(2次設定圧力:150kPa)			
ふろ給湯機能	自動湯はり	湯はり温度設定:35~48℃(1℃刻み14段階)		湯はり水位設定:4cm刻み7段階・おこのみ
	自動保温	自動湯はり開始から設定した自動運転時間〔0~12時間(初期設定6時間)〕の間、設定温度で保温する		
	自動足し湯	自動湯はり開始から設定した自動運転時間〔0~12時間(初期設定6時間)〕の間、設定水位まで足し湯する		
	高温差し湯	60℃又は80℃の高温の湯で浴槽温度を約1.5℃(60℃時)上昇する量で差し湯する		
	足し湯	設定温度の湯を約20L足し湯する		
	差し水	約30℃の湯で浴槽温度を約1℃低下する量で差し水する		
	洗浄	約2分間ポンプ循環後、約14L・30℃の湯にて洗浄する		
浴槽の目安	120~450L			
用 途	セントラル給湯			
	2~3人家族用	3~4人家族用	4~5人家族用	
メインリモコン	操 作	ふろ自動・インターホン・タンク湯温調節・タンク沸増し・タンク湯温・給湯温度 湯はり予約・沸き上げ停止日数予約・現在時刻合わせ・音量調節		
	表 示	電源・ピークシフト・沸上げ中・給湯・高温・タンク湯温表示・優先・給湯温度・タンク内温度 残湯量(60L・120L・180L)・湯はり予約・沸上げ停止日数・現在時刻・エラーコード・電力制度・ 沸き上げ温度設定(自動・最高)・沸増し(おまかせ・少量・全量)・おはなしランプ・おふろランプ		
浴室リモコン	操 作	ふろ自動・高温差し湯・インターホン・ふろ湯温・ふろ湯量・ 給湯温度・足し湯・差し水・洗浄・優先・音量調節		
	表 示	優先・給湯温度・現在時刻・エラーコード・高温・保温中・湯はり矢印・おこのみ・湯はり水位 湯はり温度・初回湯はり量・高温差し湯ランプ・おはなしランプ・おふろランプ		

Handwriting practice area with horizontal dashed lines.

Copyright © 2013
All rights reserved.
No part of this publication
may be reproduced, stored
in a retrieval system, or
transmitted, in any form
or by any means, without
the prior written permission
of the publisher.

保証とアフターサービス

1

保証について

必ず「販売店（工事店）」「据付日」などをご確認のうえ保証内容をよくお読みいただき大切に保存してください。

2

保証内容について

- 保証期間は据付日から2年間です。
- 正常なご使用状態で、この期間内に万一故障が生じた場合は、保証書の記載事項にもとづき「無償修理」いたします。
- 無償期間経過後の故障修理については、修理によって機能が維持できる場合、有料で修理いたします。

3



点検と修理について

- 少しでもご不審の点がありましたら、販売店または当社指定のサービス店に点検・修理を依頼してください。
- 本品をより長くご使用いただくため、据付後、定期的な点検をご依頼ください。

4

補修用部品の最低保有期間について

- 当社はこの電気温水器の補修用性能部品を製造打切後最低7年間（BL品は10年）保有しています。なお補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

5

部品の交換時期のめやす

- 温水器の部品の寿命は、沸き上がり温度、水質など使用する条件によってかわりますが、一般的な交換時期のめやすを参考にしてください。

部品名	補修期間のめやす	補修方法	補修の必要性
ヒーター	5～8年	交換	通電時間や水質によって性能が低下することがあります。
フランジパッキン	5～8年	交換	長期間使用すると、ゴムの弾性が減少しシール性がなくなったりゆるんだりします。また弁類は水中のスケールによって水もれしたり動かなくなったりすることがあります。
逃し弁	3～5年	交換	
減圧弁	5～8年	交換	長期間の使用により、金属疲労が生じ接触部が損耗することがあります。
温度過昇防止器	5～8年	交換	
温度調節器	5～8年	交換	
電磁接触器(リレー)	5～8年	交換	水中のスケールやゴミが付着し水もれしたり動かなくなったりすることがあります。
タンクの過圧防止弁	3～5年	交換	
自動給湯部品 (電動弁類等)	5～8年	交換	長期間使用すると、水中のスケールによって水もれしたり動かなくなったりすることがあります。
配管保温材	3～5年	補修	太陽の紫外線によって劣化することがあります。

積水化学工業株式会社

環境システム事業部 東京都港区虎ノ門2-3-17(虎ノ門2丁目タワー) 〒105-8450

●アフターサービスなどのお問い合わせは
環境システム事業部 サポートセンター

☎0120-302-503 (365日24時間受付)